



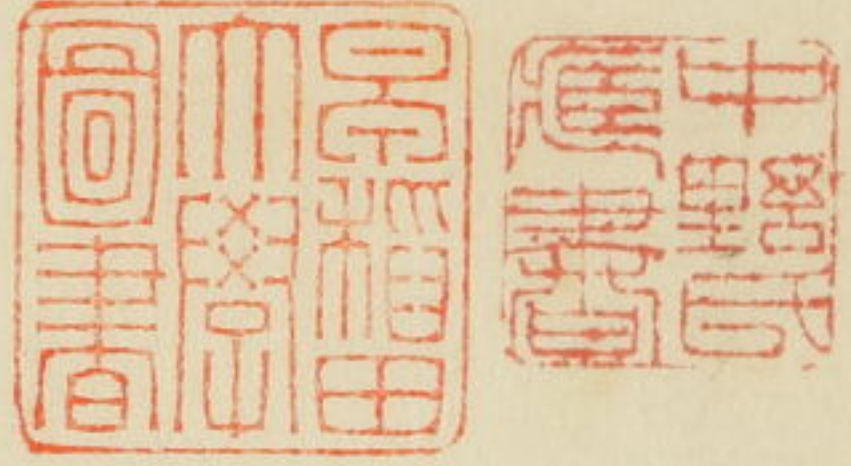
安富筆記
十

十

494
10



七鳥帽子ノ下



一八省ノ録ハ録ハサクハニ也是シ音ニテ録ト

越中 御輔丞ノト

皆音ニテヨム也宇治拾遺卷十四白河院ノ御時社イモ疑ノ

サウシニウルセキ女アリケリウレハニキ名シハ六トイモ疑ノ

陸奥 最中イモ

刑部ノ録ト云廳官下畧コレハ殿上人カノ六ト云フ女ヲヨビニ

ヤリタレハ使者者六ヲ録ト心得テ刑部ノ録ヲヨヒテ来ル

物語ナリ

一真楯公餽 叙 真楯公ハ藤原房前公ノ嫡男也真楯

公ノ餽 叙 廣橋家ニ傳來アリ其繪圖ニ同家ニアリ大塚

壹郎右衛門橋嘉樹ト云者高倉家ノ衣文ノ門笄又滋井

公麿卿ノ故実ノ門笄ニテ京都へ行通ケリ此嘉樹廣橋

家ニ願テ真楯公ノ太刀ヲ拜見シ且繪圖ヲモ写シタリ



貞丈其太刀ノ身ノ夏ヲ尋子 問シニ嘉樹カ云ク彼太刀ノ身ハ鉄ヲ打ノヘテ及ノ形象ヲ備タル分リ也ヤスリ目ハアレトモ及金モ焼モナシト貞丈按是儀刀ニテ身ハナカ子ニテ作りタルナリ見セカケハカリニテ威儀ニ備ル儀刀ト云ナリ儀刀ハ文官ノ人勅授帶劔ノ宣言蒙リテ佩也ナカ子ノカラヲ真及ノ如クニ飾ルユヘ劔及ト云ナリ劔抄劔古物大畧 本也トアリ木カラモ用タルト見タリナカ子ノ刀ニテモ木刀ニテモ真及ノ如クカサルユヘ劔劔ト云也後代ニ至テハ文官ノ儀刀ニナカ子ノ刀モ木刀用スレテ真及ヲ以テ儀刀ノ劔ノ如クカサルユヘ今ニテハ劔劔ト云フ名ハアレトモ何ユヘニ劔劔ト名付ルワケ詳ナラヌヤウニナレリ儀刀ヲ

真刀ノ如クカサルユヘ劔劔ト云フ多ハ人知ラヌ夏也

貞丈劔抄ノ文ヨリ始テ發明シ得タリ其後真楯公ノ劔劔ノ身ノ夏ヲ聞テ愚按ヲ弥決定シタリ

一花山院 クハサノ院ト唱フ 一後深草院 ノチノフカクサノ院ノチト唱ルハ是ガリ

一後水尾院 コシノオノ院 一西院 地名

一勘解由小路 カゲノコウチ 地名 一太上天皇 ダジヨテニワウ

一鳥丸 カラスマ 地名 一后宮 コグウ

一洞院 ト井 地名 一襲芳舎 シハケシヤトヨミ

一勸修寺 クハシユジ 同 一万里小路 カンケリノワボシ

一雲林院 ウジ井 同 一轉法輪 コテノカウシ 地名

一轉法輪 テボリ 同

一書状ヲ封スル糊ノ貯ヤウ糊ヲ馬蘭ノ葉ニ包テ紙ニテ
封シ一方ノ角ニ細キ竹管ヲ短クシテ挾入テ糊ヲ押出ル
此管ノ口ヨリ出ルヤウニコシテ置テツカウベシ久シキヲ歷
テカビラ生ズルヲナシ藤原忠寄是ヲ制シテ贈リシヲ^{十四}月
八日ヨリ七月廿日ニテツカヒタルニカビラ生セス腐レズ奇也平ノ
四角ニ封シ置也或ハ管ヲ入スシテツカウ時小刀ヲ以テ切目ヲ
何方ニナリトモ付ラソレヨリ糊ヲ出シツカフ切目ハ糊ニテカキ
付テオノツカラフサカル也重子テツカフ時又何方ニテモ切目
ヲ入ラツカウナリ

一年号唱ヤウ 滋井公麗卿ハ橋嘉樹カ向奉リシテ年号
惣テ吳音ニ唱ルヲナレ共連声ニヨリテアヒクヒキ聞ニウル

サキ漢音ニモ唱ルナリ文明ハモニヤウ慶長ハケウナリ
ト唱ヘキラ俗ニハフンマイケイチヤウト云フハアシ然ナカラ
難陳ノ度ノ音交惡キハ一難ヲ得ルヲナレハ先ツハ
○シ○コク○ヒヤウ○ナニ等ノ音アルハ勘例ニ省ク事ノ由
又大化ハタイグハト濁リ音ニ唱フヘキヲナレ氏往昔ヨリスミ
来シハ類モアル由答ヘ玉ヒト嘉樹カ説ナリ○負犬按
右ノ説ニヨレハ畢竟一定ノ法ナキガゴトシサレ氏大抵ハ
吳音ニ唱ル方ト見タリ予カ思フニハ漢文ニ書タル書
ナトハ漢音ニ唱ヘカナ文ニ書タルハ吳音ニ唱ヘ今日俗
間ニ通用ノ文書ナトニテハ世間ノ人ナシニ唱ウヘシ京ヨリ
江戸へ改元ノ時年号ヲ書テ下サルニカナ付ナキユヘ

唱ヤウ知レズシテ吳漢兩音交ルナリ

一三種神畚之ヲ神璽ノ事 貞丈今按天子ノ御印ナルヘシ

其御印ノ文字ハ代ニテ改ル事ナク天皇御璽トアリ此御

印ハ神代ヨリ傳リタル物ニアラス孝徳天皇以來ノ物ニ

テアルヘシ神代ノ物ニテハナケレヒ尊ヒテ神ノ字ヲ付テ唱

ルナリ御印ハ重キ宝ナルユヘ鏡劔ニ傍テ置ルヨリ三種ノ

神畚ト云ヒ習ハセシナルヘシ八坂瓊曲玉ハ日本紀一書ノ説

ナレハ正傳トシカタシ曲玉ヲ神璽ト云説用カクシ

一關東 坂東 關東ト云ハ近江四會坂ノ關ヨリ東ヲ指シテ

云也坂東トハ上野ト信濃トノ堺ノ碓氷ヨリ東ヲ指シテ云ニ

平家物諾存藤別當カ坂東武者ノ射ヲ善スルヲ云ヘル

モ是ナリ坂東ハ列ト云ハ武藏相模安房上總下總常陸上野

下野是也後世常陸ヲ除テ豆列ヲ加ルハ小田原北条氏ノ

采地ノ時ノ事也其時常陸ハ佐竹氏ノ采地ニテ北條氏ノ

領ニ非ル故除キナリ關ハ列ト云名目ハ非也坂東ハ列ト

云ヘシ〇東鑑ニ云ヘル所ノ關東ト云ハ右ト異也東鑑卷十七

建仁二年ノ記ニ關東二十八ヶ国關西三十八ヶ国トアリユハ五畿

内ニ東海東山ヲ加ヘテ二十八列トシ北陸山陰山陽南海西海

ヲ合テ三十八列ト云タルナリ

一帋之縁 經綯端 高麗端等ノ名アリ綿錦ヘリ也經綯綿

高麗錦トテアリ和名抄錦字ノ注ニ和名迹之岐本朝式

有暈綯錦高麗錦軟錦。而而錦音之名云日雲綯又經綯トモ

書也經ハ字書ニナシ細字彙ニ居晏切錦文也唐有大
細錦通ノ作綯○暈綯ノ暈ノ字ハ日ノカサト云字也月ノ
カサモ此字ナリ日月ノ外ラ陰氣圍ミ環リテ圓クヘリラナス
ラカサト云暈綯錦ハタトヘハ日月ノカサノ如クニ花ノ形アルハ
其花ノ外ラ白ク其ホカラ空青ク其外濃ク青ク彩リ織タルヲ云也日月
ノカサノ如シ青ノミニカギラズ何色ニテモ同シ段ニニ色ヲコ
シテヘリラ色トルナリ画工ノ詞ニ右ノ如クニ繪ラ色ドルラ暈
綯ダミト云ナリ

一俗語ニ幾ト何トラ混雜シテ義理ヲ失フアリタトハ人
數ヲ幾人ト云ハハ理ニ叶フ也何人ト云ハハ理ニ叶ハス幾人ハ數ノ
定ラサルヲ云詞也何人ト云ハハ人ト云フニテ其人本國何處

誰ノ子ニテ何事ヲ業トスルゾト云フ事ニナルナリ定ラセテ數
ラバ幾リホド、云ベシ何ホドトハ云ベカラス幾程何程是ヨリ
ニキシ始メルナリ

一柳宮ノ木ノ數ノ事 ツレノ草壽命院抄

曰柳宮トハ硯短冊或鞠冠或又追善ノ時ニ經卷等ヲ居ル臺
ナリ柳ヲ以テ造之故ノ名也ケタノ木ノ數ノ事重半ノ義其
家ニノ説アリ御短冊ヲスエテ進上ノ時冷泉家ニ重ニコシラヘテ
ル由也三条三光院ノ相傳トテ依重年有吉凶之儀吉事ニハ
羊ヲ用追善ノ時經卷ナト居ルニハ重ヲ用ラルト也此段ハ
ツレハクサ
九十九段物ヲスエルニタテサニヨコサニノ兩説アル如ク其家ニノ相
承アルヘキ歟○負丈曰羊ハ陽數也吉事ニ用ヘシ重ハ陰數ナリ

凶事二月へし

一位署守行ノ字 選叙令曰凡任内外文武官官而本位有高下者若職事卑ハ為行高為守○禄令曰行守並依行守處給義解謂假令帶六位人行七位官者給七位禄帶七位人守六位官者給六位禄之類也若一人帶數官者禄從多處義解謂高官之日少而卑官之日滿者仍從多給也

一左獄 拾芥抄京程因在近衛南西洞院西○今按近衛南西洞院云獄門町○江談抄云音ノ卿為別當時長岡獄移洛陽云、前獄在長岡京○康富記云應永八年五月九日今日紫野今宮余也近衛西洞院獄門内攝旅所云、
一漢音吳音 延曆十一年格曰如聞明經之徒不可事習其音

發声 讀誦既致訛謬靜言其弊尤年勸誘宜今
大學及因學明經生等兼習又十七年格曰一諸讀書出身等皆令讀漢音勿用吳音一大学生年十六已下欲就明學者先令讀毛詩音欲就史學者先令讀尔雅文選音
○日本紀持統天皇五年九月已巳朔壬申賜音博士大唐續守言薩弘恪書博士百濟末士善信銀人二十兩ト見
タリ此年ハ唐ノ中宗ノ嗣聖八年ニ當レリ 是本朝ニ音博士ノ官ヲ置テ唐人續守ノ言薩弘恪ヲ招キ居テ唐ノ音ヲ教授セシメシナリ 漢音ト云ハ是ナリ漢ノ代ノ音モ唐ノ代ノ音モ替ル丁有ヘカラス異音ナカルヘシ右ノ音ヲ受ケ傳ヘテ今ニ其音本朝ニ傳レリ漢音トモ唐音モ

云へし今世異國ノ清朝ノ元祖康熙帝ハ韃靼ハ云フニス
國ヨリ出テ大明ヲ打亡シテ國ヲ奪ヒ取り國民ノ髮ヲ
剃シテ韃靼ノ風俗ニ変シ韃靼人國中ニ充滿シケレハ
字音モ言語モ韃靼ノ字音言語交リタレハ古代漢唐
ノ比ヨリ傳リシ音ハ一変シタルナルヘシ今世長崎ノ通
事ノ謂フ所ノ唐音ト云者ハ古代ノ唐音ニハアラス
韃靼音ノ交リタル清朝ノ音也日本ニ用ルハ古代ノ唐
音ナリ愚昧ノ儒者ハ今ノ唐音ヲ長崎ニテ學ヒテ漢
唐ノ代ヨリ如此ノ音也ト思ヒ貴テ日本ノ音ヲハ國音
ト号シテ日本ニテ作り出シタルヤウニ云テ賤シムルハ日
本ノ古史古記ヲ讀ス唯忘ニ隣ノ國ヲ貴フノ所為ナリ

古今ノ変ヲ知サルカ如シ又菽生惣右衛門物茂卿
徂來ト号ハ漢音ハ
管音也吳音ハ江音也管家江家ニテ音異也ト彼人ノ
述作なりとト云草子書タリアトカタモナキソラゴト
也兩家ニテ音ヲ異ニセント云フト我朝ノ國史其外古
書ニ曾テ見サルトノ推量ノ妄説ヲ作りタル也カノ
ナリト云草子妄説多シ菽生ハ我生レタル父母ノ
國ノ日本ヲハ甚賤シ、夷狄ノ國ナリト云テ只隣ノ西土ヲ
聖人ノ國也トテ中華中朝ナド、云ヒ貴ビタル人ナレバ
足モトノ日本ノ事ヲバ何モ知ラヌ人也タリク知タル
莫モ取り違へ誤タル事アリ聖人ノ道ニ父母ノ國ヲ
賤シムルト有ヤ否ロヤ

一奏請 後宮職員令義解_ニ謂奏而請其報

一戒刀 一説ニサスガト訓ス非也一説今ノカフソト_レ瓜_ラ

割皮ムク物ノ類也トサレ凡割瓜ニモアラズ根本雜事云

佛制云不聽大長刀汝等應知有三種カ子謂大中小

大_ト可長六指小者四指二内名中其状有二品如鳥羽曲

似鷄翎不應尖直比丘畜刀名戒者蓋佛不許斫截

一切草木_ヲ况其他乎 以上畧史 山岡氏説

一志々良綾 熨面綾 後照念院殿 関白 冬平公 装束抄云固屋

入道第二度 柝柄脚時所袍脚直衣非志々良熨面被用

之_ヲ、○貞丈云志々良ハ_シラアル綾也_シトハ綾ノ地_トハ_シ

テクトハ_ハチリ_メシトノ如クサ_ハナ_シノ如クナルナリ是ハ本名縮線綾

ナリ熨面ハ右ノ如ク_ニシ_ラナリ地ノ平ナルヲ云ナリ_シラ_ヲ

熨シタル意ニテ云ナリ 練貫モ_シラノ練貫ノ_シメノ練

貫アリ是今世武家ニテ着用スルモノナリ

一神無月 壺井義智神祇令ノ頭書ニ初冬無神事

此以為神無月也

一八省ノ号 式部兵部民部治部刑部ハ唐ノ尚書六部

官吏部兵部戸部刑部礼部工部_ヲ模シタルナリ

然レモ此方ニハ五部ノ_シアリ五部共ニ音_ヲ以テ呼_フ也

中務大藏ハ訓_ヲ以テ呼_ヒ宮内ハ亦音_ヲ以テ呼_フ一準ナ

ラス

一租稅 神祇令義解云 租稅者並是田賦唯新
輸曰租 經貯曰稅

一木蘭地 僧尼令曰凡僧尼聽著木蘭青碧皂黃及
壞色等衣義解曰謂木蘭黃椽也青碧者碧亦青
色壞色者失錯常色 漫壞ノ非全者也

一北國ノ田舎人ヤラシノ詞ニ何ト云フ夏ヅト云フアラシク
夏ヅト云ハアハナシノ 轉 詔ナリ。クウハ。トイフノ約詔也

万葉集ニ。トイフヲ。クウトヨメル哥アリ後ニクウヲ又轉シテ
テフトヨメリ 迄スラフ 衣ホスラフナドノ類也タト云フハ
ゾノ轉 詔ナリソ 轉シテジラトナリシヨ又轉シテジャナリ
ジヤ又轉シテダトナル也京ノ人ノ詞ニサウジヤコウジヤト云ヘル

シマモツノ轉シタル也 関東ニテハダト云ナリ

一職事官 散官 公式令曰凡内外諸司有執常者為
職事官無執掌者為散官 ○私云職事散事ト
モ云

一文官 武官 同令曰五衛府軍團及帶仗者為武 義解曰謂
馬寮兵庫 大宰府三關國及内舎人不在武限 義解曰謂
等是也 自餘為文ト 大云不在武

限ニ即知合帶仗既
亦中務丞以上准而須知

一神璽 同令曰天子ノ神璽 本注云謂踐祚之日 内印方三寸 下
壽璽室而不用

一葬具用白布 日本紀孝德天皇二年春二月 署 迺者我
民貧絕專由營墓爰陳其制尊卑使別 中署 其葬時
帷帳等用白布 下署

一禁狗死 右同条曰若經自殉或絞人狗及強狗已人之馬或為已人藏室於墓或為已人斷髮刺股而誅如此舊俗一皆悉斷縱有違詔犯所禁者必罪其族

一 小町鬮 江家次第卷十四九六 在五中將書和哥與

二條后大原也小塩之山毛今日止已曾神代之事緒思出良目人疑先是若有密事歎或曰在五中將為嫁件后出家相構其後為生髮到陸奥國向八十嶋求小野小町尸夜宿件嶋終夜有声曰秋風之吹仁付天毛阿那目阿那目後朝求之鬮骸目中有野蕨在五中將涕泣曰小野止波不成薄生討里即斂葬云々○古事談ニモアリ

一 太上皇 史記漢高祖本紀六年曰高祖乃尊大公為太上皇

一 今木 舊事紀曰宇麻智麻治命先猷天瑞亦豎神楯以斎矣謂五十櫛亦云今木ト○此今木ハ東鑑ニ所謂ノ今木トハ別ノ事ナリ東鑑ノ今木ハ禁秘抄棠花物語ノ湯卷ニ同シ

○ 漢音 吳音ノ辨

一 漢音ニ 拗音ニ似タル者多シ左ノ如シ 貞丈云キワノ反ナリ

求キウ 九キウ 右ウ 久キウ 右ウ 吳音 貞丈云キワノ反ナリ

一 清濁ニ依テ分ツモアリ 如左 濁ルハ漢音 貞丈曰ハヒフホ濁ラ漢音ニ

無ム 武ブ 務フ 目ム 清シ 吳音 横通シテモ吳音ニ

又清ヲ 漢音トシ濁ルヲ 吳音トスルアリ 如左 清ハ漢音 濁ハ吳音

大衆タイヂヤウ 神シ 時ジ 實ジツ 濁ハ吳音

一タキツテトナニヲ子ノ相通ニテ漢音吳音ノ別アリ

内女年農

横通テナニヲ子ノ吳音ナリ

一イキシチニヒミイリ井 相通ニテ漢音吳音ノ別アリ

有宮洲頭加流

イキシチニヒミイリ井 漢音ナリ
ウクスワヲフムユルウ 吳音也 豎通也

一エケセテ子ヘノエシエ 相通ニテ漢音吳音ノ別アリ

永京慶音性定平明靈

漢音 エケセテ子ヘノエシエ
吳音 イキシチニヒミイリ井

一漢 吳共ニ下ノイノ韻アル字 相通ニテ漢音吳音ノ別アリ

穎契西體泥稗未礼

漢音 エケセテ子ヘノエシエ
吳音 アカサタハニヤラワ

一イキシチニヒミイリ井 漢音ニテラコソトノホモヨロシ 吳音ナルアリ

音近居廢續論億弗欲六旋曲

漢、
吳、

一カキクケコ 相通漢音吳音別ルアリ

香行客拾鶴確極曲虛逆空元

漢、
華化
助快
假

一タキツテト 相通漢音吳音別ルアリ

適嫡擲適

漢、
吳、

一クハイノ音 漢音ニテエノ音 吳音也

誰懷會壞織回

一イキシチニヒミイリ井 相通漢音吳音別ルアリ

仁如若兒柔弱愍

漢音濁
吳音清

一ハヒフヘホテシムメモ相通漢音吳音別ルアリ

凡シ愍シ文シ問シ門シ聞シ免シ 漢、清

一同音ニテ清濁ヲ以テ漢音吳音別アリ

神シ時シ實シ大シ 漢、吳

右韻鏡袖中抄ノ趣ナリ毛利貞齋説

一武士軍之時名詮トテ物名ノ吉ナルヲ 好テ凶ナルヲ惡ム

一其風俗也カ蛇ヲ討ニ取り堅粟ヲ勝ニ取り昆布ヲ

悦ニ取り我幕ヲ打ト云敵ノ幕ヲ引ト云類ノ事多シ

前漢劉向カ説苑卷十六談叢篇云邑名勝母曾子ハ

不入水名盜泉仲尼不飲醜其名也又後漢書列傳

三十一鐘離意傳云孔子恐濁於盜泉之水曾參回車

世セイ漢
吳

於勝母之間惡其名也ト見タリ其名ヲ惡ハ其名ヲ好ムヲアルヘシ

一知久菟 職人哥合ノ繪矢細工ノ詞ニコレハキクノトテアツ

ラヘラレテ候トアリ 下学集ニウキスハ手ヲキラフモノナレハ

好ニニヨルト也古ヨリウキスノ名物ト云ハ佐渡菟也信州

知久ノ一鎌ト云ヲ用ル也サレトモカタウキスニ徳多キ也ト

見タリ或矢ユノ云ウキスト云ハ菟輕クシテ水ニ浮ク也昔

佐渡ヨリ出タレ氏今ハ出サス知久ハ信州ノ地名ナリ昔

小笠原殿ノ領地ニテアリシ故知久ヨリ出ル菟宜シキ

故是ヲ用ラル、其菟二年歴タルハ鎌ニテ一苻ニ切取

ル也三年歴タルハ一苻ニ切リ取ラレク一苻ニ切取ラル、ヲ

知久ノ一鎌ト云テ用之今ハ知久ヨリ出サズ是ウキス也
右ノ矢六畑中休右衛門ト云者也芝三田八丁目ニ居住ス
○信州ハスベテ竹ノ性宜シカラズ太キ竹ナシ性宜シカラス
竹實セサルユヘウキスアルナリ竹性宜シカラガルハ信州
諏訪ノ人ノ談ナリ○片ウキストハ全キウキスニ非ス半
ウキスヲ云ナルヘシ○知久ノ鎌篋トモ云鎌ニテ刈ル
篋ト云フナリ堅ケレハナクニテ切ナリ鎌ニテハ刈ラレサル
ナリ中学集ノ一本ニ知久ノ鎌篋トアリ
一火葬賦役令曰凡丁匠赴役身死者給棺在道亡者
所在國司以官物作給並於路次埋殯立牌並告
本貫若無家人來取者燒之有人迎接者分明付領

火葬續日本紀文武四年三月己未道明和尚物化ス火
葬始也又曰文武大室三年十二月癸酉持統天皇ヲ
飛鳥園ニ火葬ス

一韻鏡神中秘傳抄卷七ニ自己ニ好テ名ツキシ文字必其
身ノ吉凶著キ事ト云箇条ニ和漢ノ人ノ名ノ文字
ニ因テ其人ノ禍福吉凶アリシ古例ヲ多ク載タリ其ヨ
リニテ条過テ次ニ名乗ニ正反及倒及必可用又四声ノ字位ヲ
可察事ト云テ条ニ正反トハ例セバ義朝反竟此正反ノ歸納字ナリ
倒反トハ此二字ヲ朝義ト例ニ反セバ智ト歸納スルガ
如キラ云正反ノ歸納字吉ナリ氏復倒反ノ歸納字凶
字ナラハ必不可用下畧貞丈曰源義朝ノ名乗字正

及ニテハ歸納ノ字亮也倒反スレハ歸納ノ字智ナリ
亮モ智モ吉ナル字也然ルニ義朝ハ父為義ヲ弒シ
後ニ家僕長田庄司カ為メニ弒サレタリ是名兼ハ
吉ニテモ其身凶害ニアヘリ人ノ身ノ上ノ吉凶禍福ハ名
兼字ノ吉凶ニ因ラサル一是ニテ知ルハ和漢ノ古人
ノ事跡ヲ以テ其名ノ字ノ吉凶ヲ引合テ考ヘ見レハ
名ハ凶字ナレ氏其人ノ一生涯吉ナルモアルヘシ名ハ吉字
ナレ氏一生涯凶ナル人モアルヘシ名ノ凶字ナルニ一生涯凶
ナル人モアルヘシ名ノ吉字ナルニ一生涯吉ナル人モアルヘシ名
字ノ吉凶ニ付テ事跡ノ吉凶一定ナル事アルヘカラス韻鏡袖
中秘傳抄ハ京師ノ儒士毛利貞齋カ著ス所也其身真

儒ナラハ人ノ身ノ上ノ吉凶禍福ハ名兼字ノ吉凶ニハ
因ラズ皆天命也心ヲ正シ身ヲ直クセハ身自作リ出
ス禍ヲハ免ルヘシト云ヒ教ヘテ愚俗ノ惑ヲ解キ曉ス
ヘキナリナルニ強テ名ノ字ノ吉凶ニ因テ其人ノ禍福有
リシ古例ヲ証ヒ引テ愚俗ノ惑ヲ増スナラ為セリ是
真儒ニアラス巫覡僧尼ノ人ヲ惑ハスニ異ナルナシ可憎哉
一胸形箭 賦役令曰凡諸貢獻物者^中香藥彩色服
食器用器^下義解曰器用者如下野氎胸形箭之類是
也○胸形ハ筑前ニアル地名ナリ
一新井筑後守名兼君美キヨシトヨム文章ニ勘トアル俗
称勘解由ト云タル故也又璵トアル俗称與次右衛門トモ

云レ故ナリ印章ニ紫陽トアルハ筑紫ノフニテ筑後守ナ
リシ故ナリ君美ヨリ四代傳次郎邦賢説ナリ邦賢実
ハ君美ノ孫也兄源太郎邦孝ノ養子トナル父ノ名ハ
傳次郎明卿

一之千ノクノマタラユコ
万葉ニアリ同卷十四安多良乃
祢尔布須思之能安里都々毛安礼波伊多良牟祢度
奈佐利曾祢首書云安多良祢權現御座温泉在之深岨也
一本朝ノ官位ハ其本唐ノ政ヲ学テ立ラレタレトモ別ニ官位ノ
名号ヲ立ラレタルナレハ唐ノ官位号ヲハ用ニキク也然ルニ
唐名ト云テ本朝ノ官位号ノ代ニ唐名ヲ用テ書之ハアル
ニキク也中古以來心得違テ唐名ヲ書ク風俗トナレリ

一大分音馬 万葉集卷十三 作者不知 衣袖大分音馬之嘶

音情有帛常從異鳴

一名乘ヲ及ス事 浴下ニ及ス 名乗秘傳鈔ト云幽軒ノ記ニ名乗ヲ

及スハハ中古ヨリアリト見エタリ詞花集ハ崇徳院仁平元年

仁平ハ近衛院ノ年号也ニ撰セラル其時詞花ノ二字ヲ切シテ邪ノ字ト反ルヲ

以テ難セラレタリトナリ日次記ナトニモ切ノフアリトイヘリ

然レトモ中納言匡房卿ノ江家次第ノ當代親王宣旨ノ

下ニ藏人頭仰ヲ奉テ上臈ノ博士ニ仰テ御名字ヲ

勘申サシム博士勘文ヲ進ム

勘申御名字事

ナニハ 某ノ書 一ニ 某ノ一反一也
一ニ 同上 某ノ一反一也

右勘申如件

年月日

官姓名

右ノトナリナレハ匡房卿ハ堀河院ノ時ノ人ナリ此頃既ニ名
乗ラ反シ歸字ニテ查考シ玉フ一明ナリ猶其始タル
時ヲ詳ニセズト 幽軒ノ説ハ此レヨリ少後ノ一也又近
世春臺ノ説ニ寛永以來ノ俗ナリトイヘルハ大ニ非ナル
ヘシ又中夏ニモ 此ニ似タル事アリ晋書ニ及為清暑殿
右職者以為清暑反為楚聲哀楚之徵也ト俄帝崩
晋祚自此傾矣又齊ノ明帝拘忌ノ性ニテ人ノ名ヲ反シ

クルフアリコレラハ音響ノ通ヘルヲ惡タルナレト和漢共ニ同シ
キヲナリ

一名乗ユタウヨミノ事 同抄云古ニ字ノ名ヲ訓ト音ニ呼ブ
アリ長良公ト申シ時風ト云ヒ平貞文トイアリト古キ書
ニアリ是ヲ俗ニユタウ訓トイヌユトウトハ湯字ハ訓ナリタウ
ハ音也音ト訓トヨムナリ今ノ世ニハ必働ヘカラズ

○貞丈云一條禪岡兼良公モカ子ラトヨム其御子冬良公
モフユラトヨム也カ子ヨシフユヨシハアラズ古書国史ナトノ人名
ニハユトウヨミ同ニアリ本文ニ今ノ世ニハ必働ヘカラストアレハ古例
アルナレハ人ノ好ニカセテユタウヨミヲモ用ヘシ

一名乗讀如ノ事 同抄云後花園院ノ御宇洞院左大臣實熙公

後ニ剃髮シテ 東山左府ト申ス此公和漢ニ通シ無雙ノ
博學ナリ拾芥抄ヲ作ラル其中ニ人名録トテ一篇アリ
名乗ノ讀如ラ傳エ玉フ此詭如ノ中後世ニ解シエズ
訓多アリテ人々ツノ意茂ラエズサレド今。音訓。義訓
正訓本文ノ五例ニテ推セハ明也其一ニライハ音純ス。音
ジユナリシユラツムレバ。ス也ニハ。也。ニト。ハ通韻也ヨツテスミト
ヨム **茂** モチ。曷韻音末ナルラモ子トヨムハ。ト。モツハ。和通音
ナレバナリ又訓ニシテイハ、モチハ滿也草木ノ茂ルハ山野ニ
シツル意ナリ万葉人丸ノ哥ニ望月ノ滿ハシケントアリ望月
ハ滿月ナリ **郡** クニ。グニナリ **錢** ラニ。如シ。正六 **治** ハル。田ヲ治
ルヲハルト云古事記ニ新墾万葉ニ新治トカク **成** シケ。尔雅

ニ山ノ重ナルヲ一成ニ成ト云九成ノ臺トハ九重ノ事ナリ
枚 ヒラ。一枚ノコト也葉同シ日本紀ニ葉盤ヒラテノ省ニハ **玄**
ハルハルカノ略天ノ高キナリ **扶** スケ。タスケノ畧 **諦** アキ
。アキラカノ略審諦ノ義 **禮** イヤイヤヒノ畧 ○義トハ
朝 トモ朝廷ハ百官相友タルノ義 **寅僚** トモ。同役ノ義
知 トモ。舊知知己ノ義 **五** トモ付伍ノ義相組ナリヨツテ
ミナトモトヨム○本文トハ **孝** タカ。孝經孔安國序ニ孝ハ
者人之高行也トイフヨリ出ツ **賢** カタ。像ヲカタトヨムト
同シナリ論語ニ見賢而思齊トイフヨリ出ツカタトル
義ナリ質ノ字ノ誤ニアラズ **仁** ヒト **義** ヨシ中庸ニ仁者人
也義ハ宜也ト云ヨリ出タリ○大抵右ノ五例ニ攝ナリ此外

常ノ訓ノ字注ニ及ハス

一名兼ノヨミ上下ニテ違事同抄云名兼ノ訓上下ニテ

カハルトハタトハハ朝字アサトヨミトモトヨムアサハ朝タノ

朝ナリトモハ朝廷ノ朝ニメ百官者ヲ同シ同ヲ共ニメ

相交タルノ義アリ寅僚モ同役ノヲ也仍テトモト訓ス

又朝ノ字公家武家ニテカハリアリ字ノ上下ニテヨシ異

ナリトイヘリ此言非ナリ義朝ノ子ニ朝長アリヲキ所上

下アレドカハルニジト物部ノ翁ハイヒ玉ヘリ其餘ハ推テ

知ヘシ

一名兼通ノ字ノ事同抄云通り字ノ起リハ中世ヨリノカ

クノナリ父祖ノ名ノ一字ヲ截テ上ニモ下ニモ用ルナリ

又曰仁ノ字ハ水尾帝ニ始リタニヒテ後冷泉院以後連綿テ

御名トナル○又曰足利氏ハ世ニ義ノ字ヲ名ノ上ニヲキ佐々木氏

ハ綱ノ字ヲ名ノ下ニヲキテ通字トス中夏春秋ノ時楚國ニハ

世々熊字ヲ名ノ上ニヲキ六朝ノ王氏ハ之ノ字ヲ名ノ下ニヲ

ク和漢共ニ同シ○貞丈云頼光頼義々家義光頼信皆

通字也或ハ名ノ上或名ノ下ニアリ又頼朝頼家實朝頼経皆

通字ニ北条氏時政ヨリ子孫時ノ字ヲ通り字トス秀衡

家ニハ衡ノ字ヲ通字トス

一名兼ニ妄説アル事同抄云名兼ヲ售家ニ其術ヲ神ニ

セントテ昔ヨリ又ヲ誰カスヲアリ貞福寺ノ玄昉入唐セ時彼

國ノ人玄昉ハ還亡ノ音ニヒク國ニ還ラハ必亡ヒント云シカ

果シテ帰朝ノ後筑紫觀音寺ニテ藤原廣嗣ノ靈ニ捉テ
玄昉カ頭與福寺ノ唐院ニ落タリト又壽永ノ頃天台
座主明雲僧正法住寺ノ御所ニテ義仲カ時楯六郎親忠
カ矢ニ中リテ横死シ玉フハ明雲ノ明ハ日月ナリ下ニ雲アリ
テ光リヲサフル故ナリト右ハ元亨叙昏盛衰記ニ出タルヲ
塩囊抄ニ附會シタル妄説ニ名乗ノ反ニ涉リタルトニ
アラス且玄昉ハヒミコニ還亡ハワニワニ夏音各別テ音響
カヨウナシ又明雲ヲ反セハ文ナリ文ハ日月星辰ヲ天文ト云
ヒ道德礼樂ヲ人文トス又ハ文徳文章文物ナトイフ至テ
貴キ字ナリ誠ニ座主ノ職ニ称ヘリ玄昉ノハ叙書ニコシヲ
辨シテ尽セリ明雲ハ大度ノ焚ル禍池魚ニ及ヘルモノナリ其

實ハ宿冤ナルヘシソノ杜撰ナルヲ知ヘシ又義朝ノ反鴉ノ名也
此鳥成長メ親ヲ殺ス義朝子トメ父爲義ヲ殺セシハ歸
字鴉ナレハナリトイフソレ義朝ノ反ハ堯ナリ堯ハ聖王ナリ
義朝ニ堯ノ盛徳アリヤ又爲朝ヲ反セハ鴉トナル爲朝子
トメ父ヲ殺シタルヲアリヤコト妄説ナルヲ知ヘシ凡カヤウノハ
道士ト師ノ齋談ナリ慎テ信ズヘカラズ

一字ノ事 同抄云元服ノ名ヲ付テ中夏ニハ子生レテ三月ニシテ
父母コレニ名ヲ命名ハ終身 自称モノ也既ニ弱ニナリ元服ヲ
加フルトキハ冠賓ヲ請メ字ヲ命シム字ハ他人ヨリ我ヲ呼フ
称ナリ其礼仪礼記ニ具シリ本邦ニモ元服ノ礼古記ニ見
エタルハ天子ハ加冠理髮三公務メ玉ヒ幕下ハ執權御役ナリ

最重キ嘉礼ナリサレハ下庶民ニテ元服ハ成人ノ初ナレハ此時
名乗ラ命ナリ但中夏ニハ幼童ノ時名ラ命元服ノ字ヲ
ツクフナレト本邦ニハ古ヨリ名乗ハカリニメ字ハナキナリ古人ノ
中タビ紀長谷雄ノ字寛三清貫ノ字耀文屋ノ康秀字琳
菅聖廟ノ字三ト申奉ル僅ニ此儒臣ノ字ノニ後世聞エ玉ヘリ
今ノ世ニハ名ヲ實名トイヒ名乗トモイフ字ヲ假名トイヒ俗
名トイヘト礼記ニ冠而字之敬其名也トイヘル字ニハアラスト
知レシ〇貞丈云何太郎何次郎何三郎ト云名ハ昔ハ元服ノ日
命之是ラ烏帽子名ト云字ニ似タリ何兵衛何右衛門何左衛門
ハ官名ヲ犯シタル也字ニハ似サルナリ
一名ト諱ノワケノ事 同枚云名ヲ諱トイフナハ正字通云既死諱

其生前之名故曰諱字彙云生日名死曰諱トアリテ生前
ニハ名トイヒ死後ニ 諱トイフ三代ノ周ノ代ヨリハシテ故ニ
碑碣ノ類ニハ某ノ諱ハ某トカクヘシ生者ニハ不敬ノナリ
敬ヘシ天子ニ御諱アルハシメハ北畠准后ノ神皇正統記ニ仁明
天皇諱ハ正良 是ヨリサキ天皇ノ諱多クハ乳母ノ姓ヲ
用ヒラルトハ桓武帝ノ御諱ヲ山部平城帝ヲ安殿嵯峨
帝ヲ神野淳和帝ヲ大伴ト申奉ルヲイフ吾国ニ生レシ人
ハ敬テ知ルヘキナリ 〇貞丈云仁明帝ノ正良ハ御名也
崩御ノ後ニ正良ヲ御諱ト云ナリ御在世ノ時御諱トハ
云ハガルナリ 桓武ノ山部平城ノ安殿嵯峨ノ神野淳和ノ
大伴ノ如キハ御幼名ヲ其ニニ御成長ニ至ニテノ御名ニ

ナサレシ也其御名ヲ崩御ノ後ニ御諱ト云也今世ノ人
悪ク心得テ貴人ノ御名乗ラハ憚テ常ニ云サル故御諱ト
云フ物也ト思ヒ誤テ存命ノ貴人ノ御名ノ一ヲ御諱ト云
ハ是甚不敬ナル也生タル人ヲ死人トスルハ失礼是ヨリ大ナ
ルハナシ

一字 万葉集曰有吉田連老字曰石麻呂

一五等ノ親儀 制令ニ見タリ

一左乘右樂伎樂 左樂唐ノ樂也右樂ハ高麗百濟ノ
樂也伎樂ハ吳國ノ樂也法會ナトニ用ル樂也冬良公令

一椽衣 衣服令曰家人奴婢椽墨衣義解云 謂椽者
ノ聞書ニ見

標木實也以椽深繒俗云繒椽衣也○日本紀

持統天皇七年春正月辛卯朔壬辰是日詔令天下百
姓服黃色衣奴皂衣○標樹ハクヌキ也標實トシテ
云此ヲツキクダキ剪シテ黒色ヲ深ル也○薩戒記ニ椽色以
五倍子鉄醬深之トアルハ後代ニ至テ標實ヲ用スシテ其

代ニシハク口深ニシタルナリ

一衲ツマカケ襠カケチ 衣服令武官礼服條云加繡衲襠義解云謂

一片當背一片當胸故曰衲襠也○和名抄云衲襠唐

韻云襠音兩襠衣名也和名云兩襠今梅兩或作柄和名字知加介其一當

胸其一當背也唐令云慶善樂舞四人碧綾襠上音若蓋反

一八咫鏡 咫ノ字 付テ唐ノ寸尺ヲ定ヲ引テ説クハ附會ノ説

ナルヘシ神代ニハ文字ナケレハ唐ノ書モイニダ渡ラズサレハ唐ノ
事ヲ以テ説クヘカラス神代ヨリヤタノカニト云右バカリ詞ニテ
ツタヘ来テ文字ナキヲ後ニ文字ワタリテハ忍ノ字ヲソノ詞
ニ付テアテタルナリ愚按ヤタト云ハハ手ナルヘシ手ヲ以テカ
テ鏡ノ寸尺ヲ云ヒシナルヘシテト夕ト音相通ナリ
一水子ハクビカニニ縫也狩衣ノエリノ如シシカルヲエリヲ内ヘ
折コミテタリクビニシテモキル也直垂ナドノエリノ如クニカ
永綱抄云上下水子ハ幽玄ナル間也上ハ布衣ノ前後ノミジカ
キ物也クビカミヲ内サニ折テエリノゴトクニテ着候ヲダリ
クビト云也ダリクビニ紐アリタリクビナラバ右ノ紐ヲ肩ヨリ
後ニ付テ左ノ紐ハクビカミノ折伏セタルサキニ付テ左ノ袂

ヨリ取出テ前ニスチカヘテユフヘシ馬ニ乗ル時ハ右ノ紐ヲ
モ後ヨリ前ニ同シヤウニユウヘシ云々○負丈云ダリクビニ紐
アリト云ハクビカミニヒモアリノ書誤ナルベシ又ダリクビナラバ
右ノ紐ヲ——如此ノ文ニテハタリクビノ時ヒモ付ヤウカハル
ヤウニキユレヒ本文ノ心ハクビカミノヒモヲソノニ付ナラサス
テダリクビノトキノヒモノムスヒヤウノチカヒノヲ云ナリ本文
ノカキヤウワロキナリ

一畫御座御劔 今世ノ御劔ハ銘アリ豊後行平ノ作也
行平ハ紀新太夫ト云是後鳥羽院建久ノ比ノ作也古ヨリ
研セラル、一ハナキ例ナルヲイカナルトニカ先年研セラレシニ
本阿弥研ニヒラセケレハ其賞ニ伊勢大掾ニ任セラレケリ

銘アルヤト御尋アリシニ無銘ニ候ヨシ申上タリトソワサト
無銘ニシテ作者知レズト申傳ヘタルユヘ無銘ノ由申ケルト
也酒井氏本阿弥ニ尋ラレケレハ豊後行平ノ銘アルヨシ
答タリトゾ酒井氏ノ談ナリ

一白鳳ノ年号又朱雀ノ年号 古語拾遺ニ難波長柄豊前

朝白鳳十四トアリ是ハ白雉ナルヲ傳写ノ誤ナレハ続日本紀
卷九聖武天皇神龜元年十月記曰丁亥朔治部省奏言

中略 詔報曰白鳳以來朱雀以前年代玄遠尋向難明ヨシ
是ハ白鳳ト朱雀トノ同年代ハルカニ遠ト云テ也白鳳朱雀以
來神龜元年ニテノヲ云ニハアラス一説ニ朱雀ハ朱鳥ノ訛ナル
ヘシト云日本紀天武ノ九年七月癸未朱雀有南門ト云見

タリ此時朱雀ノ年号ヲ建ラレタルカ日本紀ニハ見エズ夫ヨリ
六年後ニ朱鳥ノ年号アリ朱雀ニテモ朱鳥ニテモ同年代也
白鳳モ天武ノ年号也ト世ニ云傳レハ是又同代ナレハ年代
玄遠ニハ非ス思フニ白鳳ハ天武ヨリモ遙ニ以前ノ号ナルベキ
歟玄遠トアレハ僅ニ百年ハカリノ事ヲ云ニハアラシ東鑑卷七
上朱雀朱鳥白雉改元ノ事アリ誤アリ畧之

一門松立事其始詳ナラス 堀川院百首ニ 顯季

門松ヲイトナシタテルソホト春明カタニ夜ヤ成ヌラント見エ
タレハ堀川院ノ御代既ニ此事アリシカハ其始ハ猶フ久シキナ
ルヘキ

一堀川院百首ニ 基俊ノ水鳥ノ歌

モガシ川ウキ子ハスレド水鳥ノシタノ心ハヤスケクモナシ
犬追物ノ書ニ檢見ハ水鳥ノ浪ニ浮ナルガ如シトアルハ此歌
心ヲ以テカケルナリ

一 或人向何ノ書ノ中ニカアリ哥ニ

アニケトハ見ツ、モ出テヲレニケリ 結解ナシナルケフノ道カナ
此結解ノ二字ノ訓ヲ知ラス多年求レドモ見得ルナシ人ニ
尋レトモ知り名人ナシ何ト訓ヘキヤ 貞丈答テ云是ハ義訓
ナルヘシ結ノ字ニシムル又シバルノ義アリ 解ハトクルトヨム然レハ
シメトケシナリ是ヲ中畧スレハシドケナシ也シムルモアラズ
トクニモアラサルハ是シトケナキナリ 雨氣ツキタリト見ナガラ
出テヲレタルハシドケナキナリ

一 驛路鈴 堀川院 百首閑ノ題 匡房ノ哥

會坂ノ閑ノセキモリ出テ見ヨ馬ヤツタヒニ鈴キユナリ

一 糲米ヲ炒リテ白クハセカヘリタルハゼト云正月二日ハセ賣ル

商人出ル此事何ノ故ト云フヲ知サリシニ或人云三嶋明神

ノ池ノ鮎ハ明神ノ使者也ト云傳ヘテ毎

彼池ニハセラ蒔キ散シテ鮎ニ食シムル

賣ルハ彼神事ヨリ事起ルナルヘシト

一 今様

花 春也やうひのあけのよの四方の山とえはるまはを
うとあゝまはれしうぬみのこをうらむれ
郭を花すくらむよにりあやねのあやむらうらむとらん

さきかきしめし山かきしめし

月秋のこころさうめいことしめしめし

せわけしり月げのこころさうめいことしめし

重冬れうしめいのかげちきりし山かきしめし

心のおとつるひもさひやうしとさうめい 右拾玉集ニ

一或人問郢曲トハ何ノ事ゾ 貞丈答スベテ哥ヲウタフ

一ノ物名也催馬樂今様其外何ニテモウタフ也郢曲トテ

定リタル哥ハナキ也ツレノ草ニ梁塵。秘抄郢曲ノ詞コソ又

アハレナル野槌ニ云郢ハ楚ノ都也文選ニ有歌於郢中

者云コレヨリ哥謡ヲ郢曲ト云也

一判 押字ヲ判ト云印ニ對シテ俗ニハ書キ判トモ云 押字ヲ

判ト云フハ上古ヨリノ事也 職制律云凡公文有本案事

直而代官司署者杖七十代判者杖一百ト見メリ此

代判ノ判ノ字ハ判断ヲ云ニハアラス 押字ノフヲ判ト云ヘ

ルナルヘシ

一弓束万葉土 アサユミユツクニキカハ 梓弓弓束卷易中見判更サラニヒクトモキミガ 引君之

隨意

一イサト云詞 サノ字ヲニゴリテ云ハ人ライサナフ詞也又サノ字ヲ

スミテ云ハタト云ト云 詞ナリ 万葉第ニノ卷ニ

人者 ヒトハ 縦 イサ 念 オモヒヤム 息 モ 登 タマカウラ 母 カケニ 王 イヅツ 鬘 ワスレシ 影 カケニ 尔 イヅツ 所 ワスレシ 見 ワカ 乍 ト 不 ト 所 ト 忘 ト 鴨 ト 見

タリ 縦リ字ライサトヨブリ タトヒ氏ヨム 字ナリ 万葉

不知ト書テイサトヨム所モアレトモ 縦ノ字ヲヨシトスヘシ

人ハイサ心モシラスフルサトノ花ソ昔ノカニ、ホヒケルモ

同断 此人ハイサラ人ハ不知ト云トスレハ下ノ詞ノ心モシラスト
同シテニテ重言ナリ人縦ト云トスレハ義穂ナリ

一 続古今集 前大僧正定圓 山ワカクナニカ庵ヲムス
フベキ心ノウチニ身ハカクレケリ 面白キ哥ナリ

一出納 官名 雅亮装束抄上卷 五節所ノ条 其火桶

前ニスイナフサウガイヲヤナイハコノフタニヲキテ云スイ

ナフト唱ル 古義ナリスイヌイトヨムハ後ノフカ今世公家

ニテシユウナフト云ハアヤテリ也 壺井氏ハスイヌイト訓ス

據アルヘシ

一 蘭ヲニト云ハラシノ轉語ニテ字音也 菊キクト云モ字

音也 我國ニナクテ外國ヨリ来レル物ナレハ字音ヲ用ユ

紫苑ヲシラニト云モ亦字音也 是又外國ノ物ナルヘシ 按

スルニ 蟬 セミト云ハセンノ音ニ近シ 蝶 テフト云ハ字音ニ同

シ 蟬 蝶 ナトハ外國ヨリ渡リ来レル物ニハアラシ自然ト

字音ニ合タルナルベシ 我國ニナキ虎ヲトラトヨシ 豹ヲ

ナカワカシトヨシ 象ヲキサトヨムハイフカシ

一 神道 稜 稜ト云ハ穢ヲハラヒ除クヲ云也 中臣ノ稜ハ

其時ニヨム 辞也 中臣稜ノ詞ハ古キ物也 稜ノ詞ハタ

中臣稜ハカリナルベシ 三種大稜ノ詞ニ坎良震巽離坤

兌乾ト云ハ易ヲ以テ作りタル詞ナレハ我國ノ稜ニ

ハアラズ 又六根清淨ノ稜ハ佛法ニテ作りタル也 六根

ト云フハ佛法ニテ云フ詞也 皆我國ノ事ニアラズ 後代

ノ人ノコレラヘタル 穢也 穢ハ穢ヲハラヒ清ムルヨリ外
ノ事ニハ用ヒタルズシカルニ 神道者ト云輩祈禱スル
トテ僧徒ガ佛經ヨムニ子ラシテ種々ノ穢ヲヨムハ
オカシキ事也 穢ハ穢ヲハラフバカリニテ惡事災難ヲ
ハラフモノニハアラズ 佛者ノ百万遍子卷陀羅尼ノ子ラ
シテ千度ノ穢万度ノ穢ナドハイカメシゲニ云ハ笑フヘ
キ也千度万度ハクドキ也 穢ヲハラフニハ一遍ニテ
サラリト清ム也 又穢ハ神ヲ拜ム人カ神事ニアツカル
人ノ穢ヲハラヒ清メテヤルタメノ 穢ナリ然ルニ神前ニ
向テ穢ヲヨムハ神ノ穢ヲハラヒ清ムルカ如シ神躰ニハ
穢アルコシキ事也ユウダスキハ袈裟ノ子也 鈴ハ

金剛鈴 錫杖ナトノ子也 或人ノ云シケニサルツカシ又
神道加持ト云フモ心得カメシ加持ト云フハ真言宗ナト僧
ノスル也又神道者ノ印相ラムスフモアリ皆佛道ノ子ラ
スルアサコシキ事ナリ又神道者ガ祈禱ノ札ヲクバルモ有
リ是又佛者ノ子也 神代ニハ文字ナシ神代ヨリ相傳ノ道
ナラハ祈禱ノ札ナト云フハアルニシ其札ニ朱印ナト押ス
事モ亦神代ニハアルニシキナリ是又佛者ノ子ナリ唯一
ノ神道ト名ノル者モ祈禱ノ札ヲクバルナリ是皆高天カ
原ヨリモ我が腹ヲ一大事トスル心ヨリサセテト事ラスナリ
又神道者ハ神秘ト云フヲ專言フ也何事ヲモ惜ミカク
ニテアラハニ云ハナラ 神秘トス神ハ正直ヲ以テ道トス惜ミ

秘スルハ邪曲ニシテ正直ニアラズ夫神ハ目エモ見エス耳
ニモ聞エス無キ歎ト思ヘハ其靈アリテアラハニ見エスアラハ
ニ聞エズカクレテ知りガタキラ名ヅケテ神秘ト云ナリ惜ミ
カクス事ヲ神秘ト云トハ大ニ違タルヲ又神道ノ書
眞加勸請因縁果報迷悟本地垂迹加持衆生方便ナド
ト云詞其外スベテ佛家ノ詞交リタル書ハ皆偽書也兩
部習合ニアラサル唯一神道ノ書ト云者ニ間ク佛語交タ
ルアリ心ツカズシテ佛法ノ語ヲ用タルナリ是偽書ノ證也
一兩部習合ノ神道ト云ハ神道ニ佛法ヲ交ヘ合セ本地垂迹
ト云テラコシラヘテ日本ノ何ノ神ハ何佛ノバケテ来リタル也ト
云フ類ノ夏ラ云皆偽也此兩部習合ハ神道者モ儒者モ甚

憎ム者ナリ又別ニ一種ノ兩部習合ノ神道アリ是ハ神道ニ
儒道ヲ交ヘ合セテ周易ノ道理ヲ以テ神代ノ事ヲ説キ五
常五倫ノ道ヲ附會シテコシラヘタル者アリ此兩部習合ハ
智ムル人ナク憎ム者ナシ○貞丈按日本書紀ノ神代卷
ヨリシテ上古ノ書ニ神道ト云名目無之後ニ儒道佛道ト
云名目アルヨリテ神道ト云事ヲコシラヘ出シタルモノナリ
一伊勢神宮ノ秘書ト云者十二部有之○倭姬命世紀一卷或
三卷トス一名太神宮本紀ト云五月麻呂撰之○宝基本紀
一卷○阿波羅波命紀一卷一名御鎮座次第紀ト云フ
○飛鳥本紀一卷一名御鎮座本紀ト云○太田命本紀
一卷一名御鎮座傳紀又猿田彦命紀トモ云以上是ラ

五部ノ書ト号ス○神名秘書二卷一名神名甄録ト云○神祇本源十六卷以上二品ヲ五部書ニ合セラ七部ノ書ト号ス○心御柱記○古老口実傳○永正記○度會宮年中行事○度會氏系圖以上五品ヲ七部書ニ合セテ十二部ノ書ト号ス此書皆佛家ノ語ヲ用ヒタル詞アリ実録ニアラス尾張國東照宮ノ神職吉見左京大夫其偽作ヲ辨スルノ書アリ○神皇実録○伊勢風土記○大織冠神祇啟白板○御鎮座本縁以上亦伊勢ノ秘書也ト云此外猶多カルヘシ大抵偽書多シ貞丈按神代ニ文字ナキ一ハ云ニモ及ハズ人代ニ至テモ應神天皇以前ハ吾國ニ文字ナシサレハ上古ノ事ハ記シタル書ナシ應神ノ朝文字

渡リ来ルトイヘ氏俄ニ文字ニ熟シテ書籍著述スル程ノ事ニハ至ルヘカラス神祇ノ事ナトラ書記シタルハ仁徳天皇ノ御宇ヨリ以後ノ事ナルヘシ佛神習合ノ書儒神習合ノ書ハ後代ニ出来ル者ナリ

一上卿史記周本紀曰王以上卿禮管仲註杜預曰國子高子天子所命爲齋守臣皆上卿也

一陪臣見于論語又史記周本紀曰陪臣管仲語也敢辨注服虔曰陪重也諸侯之臣於天子故曰陪臣

一神道ハ神祇ヲ祭ルノ道也朝廷ノ祭法アリ諸社ノ祭法アリ皆古法ヲ守テ改ズ是ヨリ外ニ神道ト云フ有ヘカラズ上古朝廷無爲ニシテ雜事多カラズ只神祇ヲ祭リ

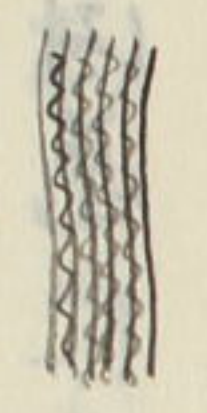
以テ一大事トシタル故ニ政ノ字ヲ訓シテマフリゴト、云也
然ルニ神道トテ人倫ノ教ヲ立テ正直ト云事ヲ宗旨
トシテ五倫五常ノ道及土金ノ傳トテ敬ノ字ヲ守ル
トトテ説キ交ヘタルハ後代ノコシラヘ事也是神儒两部
習合ノ神道也一糸兼良公ヨリ傳レル神令ト云書儒
道ヲ以テ作りタル者也近世山崎嘉右衛門シラビス岳加ト云フ
儒者神道ヲ一派立テ神儒两部習合シテ世ニ盛ニ行
ハル伊勢ノ神主出口延住トモ同シ徒ナリ此两部習合
モ人ノ教ノ端ニモナルトナレハ惡事ニモアラホレ真ノ神道
ニハアラズ真ノ神道ハ神祇ヲ祭ル道ヨリ外ニ別ノ事ハ
ナシ祭法ハ朝廷ニハ其有司アリ諸社ニハ巫祝アリテ是ヲ勤

ム常人ノ為スヘキ事ニハアラズ神祇ヲ祭ル事アラハ巫祝ニ
就テ祭ヲ行ハシムヘシ祭法ヲ学テ私ニ行フベカラズ日本紀
神代卷ヲ見ルニ吾國ノ神人倫ノ道ヲ立テ天下ノ人ニ教
ヲ垂レタメシ事ハ曾テ見ユズサレハ神道ニ教ノ道ヲ説クハ
後ニ造作シタルモノナリ天竺ニハ佛道アリ支那ニハ聖人
ノ道アリ日本ニハ教ノ道ナキユヘ後代ニ至テ神ノ教ノ道
也トテ神道ト云フヲ建立シタルナリ吾國ニ教ノ道カナクハ
ナキニシテ眞ニ正直ニシテヨシ其道ナクテハ惡キユヘ古ヨリ
儒ノ道ヲ用ルナリ儒道ヲ直ニ用テ事足レリ儒ノ道ヲ
作り替ヘテ神道ト号スルニハ及サル也
一龍生九子ラ 潜確類書卷一百十四曰龍生九子不成龍各有

所○蒲^ホ宇^ウ好^{カク}鳴^{トシ}形^{カク}鐘^{カク}鈕^{カク}上^ニ○囚^{シウ}牛^{キウ}好^{カク}音^{カク}形^{カク}胡^{カク}琴^{カク}上^ニ
 ○蚩^シ吻^{フン}好^{カク}水^{カク}形^{カク}橋^{カク}梁^{カク}上^ニ○嘲^{クウ}風^{カク}好^{カク}險^{カク}形^{カク}殿^{カク}角^{カク}上^ニ○巋^{カク}
 避^{カク}負^{カク}巋^{カク}戲^{カク}好^{カク}文^{カク}形^{カク}碑^{カク}碣^{カク}上^ニ○霸^{カク}下^{カク}好^{カク}負^{カク}重^{カク}形^{カク}碑^{カク}座^{カク}上^ニ
 ○狴^{カク}坡^{カク}犴^{カク}好^{カク}訟^{カク}形^{カク}獄^{カク}門^{カク}上^ニ○狻^{カク}酸^{カク}猊^{カク}好^{カク}坐^{カク}形^{カク}佛^{カク}
 座^{カク}上^ニ○睚^{カク}眦^{カク}好^{カク}殺^{カク}形^{カク}刀^{カク}柄^{カク}上^ニ○負^{カク}丈^{カク}云^{カク}龍^{カク}ノ子^{カク}ハ^{カク}龍^{カク}ニ
 成^{カク}ル^{カク}是^{カク}天^{カク}成^{カク}也^{カク}馬^{カク}ノ子^{カク}ノ馬^{カク}ト^{カク}ナル^{カク}カ^{カク}如^{カク}シ^{カク}龍^{カク}ノ子^{カク}龍^{カク}ニ^{カク}成^{カク}ラズ
 ト云^{カク}ハ^{カク}造^{カク}化^{カク}ノ道^{カク}ニ^{カク}違^{カク}ル^{カク}欵^{カク}是^{カク}妄^{カク}說^{カク}ナル^{カク}ヘシ^{カク}九^{カク}子^{カク}皆^{カク}別^{カク}ニ^{カク}九
 父^{カク}母^{カク}有^{カク}ヘシ^{カク}右^{カク}九^{カク}品^{カク}ハ^{カク}皆^{カク}器^{カク}物^{カク}殿^{カク}舍^{カク}等^{カク}ノ飾^{カク}リ^{カク}ニ^{カク}彫^{カク}刻^{カク}スル
 所^{カク}ノ獸^{カク}類^{カク}ノ名^{カク}目^{カク}ヲ^{カク}奉^{カク}タル^{カク}ナリ
 一長^{カク}疊^{カク}短^{カク}疊^{カク}延^{カク}喜^{カク}縫^{カク}殿^{カク}寮^{カク}式^{カク}年^{カク}料^{カク}雜^{カク}物^{カク}ノ糸^{カク}長^{カク}帖^{カク}
 十^{カク}枚^{カク}長^{カク}席^{カク}二^{カク}枚^{カク}又^{カク}御^{カク}服^{カク}ノ床^{カク}敷^{カク}料^{カク}ノ糸^{カク}ニ^{カク}長^{カク}疊^{カク}八^{カク}枚^{カク}短^{カク}疊^{カク}四^{カク}

一枚云々

一ウヅラニキノ草^{カク}コシ^{カク}ラ^{カク}ヘ^{カク}ヤ^{カク}ウ^{カク}白^{カク}キ^{カク}草^{カク}ヲ^{カク}太^{カク}キ^{カク}竹^{カク}ニ^{カク}テ^{カク}モ^{カク}木^{カク}ニ
 テ^{カク}モ^{カク}卷^{カク}ク^{カク}卷^{カク}カ^{カク}サ^{カク}子^{カク}ズ^{カク}卷^{カク}テ^{カク}細^{カク}繩^{カク}ニ^{カク}テ^{カク}細^{カク}ニ^{カク}間^{カク}ヲ^{カク}置^{カク}テ^{カク}卷^{カク}キ
 又^{カク}其^{カク}上^{カク}ヲ^{カク}ス^{カク}テ^{カク}カ^{カク}ヒ^{カク}ニ^{カク}キ^{カク}ヒ^{カク}シ^{カク}ニ^{カク}ナル^{カク}ヤ^{カク}ウ^{カク}ニ^{カク}卷^{カク}テ^{カク}ワ^{カク}ラ^{カク}ト^{カク}夕^{カク}バ^{カク}コ^{カク}ノ
 ク^{カク}キ^{カク}ラ^{カク}火^{カク}ニ^{カク}タ^{カク}キ^{カク}ウ^{カク}ス^{カク}ベ^{カク}ヨ^{カク}キ^{カク}ホ^{カク}ド^{カク}ニ^{カク}色^{カク}ノ^{カク}ツ^{カク}ク^{カク}ホ^{カク}ト^{カク}フ^{カク}ス^{カク}ベ^{カク}テ^{カク}繩^{カク}ヲ
 ト^{カク}キ^{カク}去^{カク}レ^{カク}バ^{カク}繩^{カク}ノ^{カク}ア^{カク}ト^{カク}白^{カク}ク^{カク}ナル^{カク}ナ^{カク}リ^{カク}繩^{カク}ヲ^{カク}卷^{カク}時^{カク}繩^{カク}ノ^{カク}直^{カク}ニ^{カク}テ^{カク}ラ
 ヌ^{カク}ヤ^{カク}ウ^{カク}ニ^{カク}ウ^{カク}子^{カク}ヲ^{カク}セ^{カク}テ^{カク}細^{カク}ニ^{カク}卷^{カク}ヘ^{カク}シ



此草ユカケナトニスル也
 ヲキテ後ニ繩ヲナスカヨシ

一糸^{カク}深^{カク}石^{カク}鳥^{カク}家^{カク}集^{カク} た^{カク}ら^{カク}る^{カク}な^{カク}め^{カク}う^{カク}の^{カク}四^{カク}賀^{カク}園^{カク}白^{カク}布^{カク}の^{カク}昔^{カク}々^{カク}々^{カク}
 一糸^{カク}深^{カク}石^{カク}鳥^{カク}家^{カク}集^{カク} た^{カク}ら^{カク}る^{カク}な^{カク}め^{カク}う^{カク}の^{カク}四^{カク}賀^{カク}園^{カク}白^{カク}布^{カク}の^{カク}昔^{カク}々^{カク}々^{カク}
 一糸^{カク}深^{カク}石^{カク}鳥^{カク}家^{カク}集^{カク} た^{カク}ら^{カク}る^{カク}な^{カク}め^{カク}う^{カク}の^{カク}四^{カク}賀^{カク}園^{カク}白^{カク}布^{カク}の^{カク}昔^{カク}々^{カク}々^{カク}

○貞丈云 ふうりうのさのさふらうてよむづしきうりうは
かどめノ切さとあつた詞をつづてけりうりうとひらくは詞多
きこえひらうりうと詞つらじ

一因葉に ともくしるるあまのこのあまのあまをひら
らうりうとけりうりうとけりうりうとけりうりうとけり
せうとこあつていひらうりうとけりうりうとけりうり
事とくしるるあまのあまのあまをひら 貞丈云 けりう
なりす シラズトハ
一因葉佛は信とあつてけりうりうとけりうりうとけりうり
まけりうりうとけりうりうとけりうりうとけりうり
一因葉丹はさうりうりうて七日の浦にそとて 信来とけり

そちかひらうりうとけりうりうとけりうりうとけりうり
けりうりうとけりうりうとけりうりうとけりうり
とけりうりうとけりうりうとけりうりうとけりうり

一因葉梅の花につけて定基信の母 けりうりうとけりうり
まてとるりうりうとけりうりうとけりうりうとけりうり
みてしうりうりうとけりうりうとけりうりうとけりうり
○貞丈云 右に集り梅とけりうりうと書けりうりうと書けり
一因葉と書けりうりうと書けりうりうと書けりうりうと書
万葉集と書けりうりうと書けりうりうと書けりうりうと書
の集りうりうと書けりうりうと書けりうりうと書けりうり
けりうりうと書けりうりうと書けりうりうと書けりうり

河をめぐるとこのまじりなれは定家公の御印の御印
ありあはれに一巻の所代の女房に御印を御書し
右の集厚の御印とてうめとあはれを定家公の御印とせしめ
まの御印とあり

一同集の女院の御印とてまじりなれに御印を御書し
とありまじりなれに御印を御書し
ありあはれに御印を御書し
とありまじりなれに御印を御書し

一ツバキノ花ヲ花瓶ニサスニ花日ヲヘテ落ルモノナリ枝ノ木ヲ
ワリカケテ山椒ヲ二三粒ハサミテ瓶ニサセハ花落ルヲナシト
云イニタ試ミズ

一魚袋 或書云魚袋ハ長サ五寸幅寸ハカリアル物ナリ
中ハ木也上ハ較ノ皮ニテ包ニ表ニ金ノ鯛ノ形ヲ作りテ付ル
鯛三ツナラヘ付横幅七分ハカリモ有也左横幅ニモ長ニ鯛
ヲ三ツ、シテ金ニテ目貫ノ如クニ有之也コレ節會行幸等
政事アル時目眠ラヌヤウニトノニシテ也鯛ハ夜昼共ニ子ム
ラヌ物ユヘ公卿皆用之付ヤウハ皮緒ニテ奥袋ノ底ヘ緒
ノサキラ釘ニテ打コヒソレヨリウラノ方ニ中ヘハシ奥袋ノ
上ニテ底ノ如ク釘ニテ打付テサテ緒ノ先ヲ二ツニ割ソレヲ
両方ヘハシ左ノワキニテムスヒ置ナリ尤緒ノサキ見サルヤウ
ニキテシカ一ナリ○負丈云子ムラサルヤウニトノニシテ也トハ
イカ、眠ラ誡ルタメノ者也ト云ベシ

一大上皇 史記卷六秦始皇本紀曰追尊莊襄王為太上皇ト 太ノ字点アリ

一餘五將軍維茂 今昔物語卷六曰今昔實方中將陸奥守ニナリテ其国ニクダリケルニヤコトナキ公達ナレハ国内ノ者共此字ヲ饗應シテ昏夜館ノ宮仕息タル事ナカリケリ其比同国ニ平維茂ト云者アリ是ハ丹波守平貞盛ガ弟武藏權守繁盛ガ子上野介兼忠ガ嫡子也貞盛思フ子細アリテ甥兵甥子ヲアツメテ養子ニシケルニ維茂ハ就中若カリケル十五即ニタテ、養ケレハ字ヲ餘五ノ君トイヒケル

一鷲羽班文偽物 蝦夷隨筆曰蝦夷人ノ生質正直也ト云ハ氏商船行通ヒテ交易ニ馴タル蝦夷人ハ偽謀ノ事アリ

中 近來真羽ノ斑似出來レリ斑ノ切レ様ヲ以テ稱美スルヲ畧 知テ烟ヲ熏シハ熊ノ斑ヲモ拵ル也

一因月史記卷六秦始皇本紀曰宣公享國十二年居陽宮葦陽初志因月

一蝦夷鍬先 義經ノ曹ノ鍬形也ト云傳レ共明ナル證ナシ 蝦夷隨筆曰蝦夷人淨琉璃ヲ詔ル声音ハ称名ヲ唱ル声ノ如シ中 淨琉璃ハ仙臺淨琉璃ノ音ニテ緩リト詔リタル者也尤早メテ詔ル所モ有リト見エテ音ヲ張攻テ詔ル所モアリ中 淨琉璃ノ中ニ義經ノ事アリ義經幼年ノ時小船ニ乘テ蝦夷へ渡リ八面大王ノ娘ト通シ大王或時將ニ出タル隙ヲ伺ヒ秘藏セシ虎ノ巻物ヲ盜ニ取り又小船ニ乘テ本國へ逃

歸シテ大王狩ヨリ歸テ追掛シカ氏津涇地ニテ暴風
ニ逢ヒ吹返サレタルト云フヲ作りタリト云ヘリ又或筆
記ニ東蝦夷クルト云ルニ義経ノ祠アリ今ニ絶ズ祭ル此
処ノ蝦夷地他村ノ蝦夷モ崇敬スル也人名也シヤクシヤインガ時
出タル人名也ヲニヒシ則クルノ蝦夷也ト云リ此事尋ケルニ敢テ
其事ナシヲニヒシガ村ハサルト云ル也山中ニ岩窟アリ古仙人
ノ住ケル跡ト云傳ヘタルハアレ氏義経ヲ祠ニテハナシト云ヘ
リ。サルハクルノ唱違ナルヘシ西蝦夷地六条ノ間ト云ルニ弁慶
崎ト云ルアリ義経此所ヨリ北高麗へ渡リ玉フトモ云ヘリ
是亦サダカナラズ東蝦夷地ニ鎌先ト云物アリケルヲ義経ノ
曹ノ鎌形也トテ宝物トシ崇敬セシ蝦夷人有ケル由義経ノ

曹ト云フ所ノ証トスヘキトモナク只云ヒ習ハセシ事ト聞ユ古
奥羽戦争ノ時ク落人共多ク蝦夷へ逃行ケルニ夷人ヲ
欺キ古来英雄ノ名ヲ借り威勢ヲ強クシタル者モアルヘシ
負大云奥羽ノ戦争トハ頼義ノ家
ノ時ヲ指ニ非ス其後ノコトヲ云ナルヘシ今蝦夷地ニ兵具ノアルハ是ヨリ
渡シタルニテハナク落人ノ兵具ノ残りタル也ト云リ鎌先ト
云ハ鎌ノ形セシ物ニテ迴ニ包ラ彫入テアリ則鎌ノ未柄ノ成
サル物ノ如クハ松前ノ者共鎌サキト云習セシ者ナリ是モ
蝦夷ノ細エニアラズ以前カラフトヨリ渡リタル成ヘシ此鎌先
倒ニ見ルトキハ曹ノ鎌形ノ如クナル故義経ノ鎌形ト云傳シ
ヤ夷人宝物トシテ神ノ如ク崇敬セリ蝦夷中多アル物ニ
アラズ希ニ所持セル夷ハ秘シテ深ク隠セリ義経ノ事ヲ夷言

ウキクルミト云リ是ハ淨琉璃ニ有ケル者ト聞ユ此淨琉璃ノ
根元如何シテ作ケルヤ此文句ヲ翻釈セハ大畧知ヘキ也
○貞丈今按義經奥州衣河ノ館ニテ自殺セラレシヲ其首ヲ
斬テ酒ニ浸シテ鎌倉ニ送リシ由東鑑ニ見エタリ東鑑ハ
鎌倉ノ実録也虚事ヲ記スヘカラス然レハ義經ノ蝦夷ヘ
渡ラレシト云ハ松前ノ土俗ノ謬傳也實録ノ東鑑ノ記事
ヲ捨テ土俗ノ謬傳ヲ取ル可ラズ蝦夷ニテウキクルミト云者
ト義經トハ別人ナルベシ此方ノ人ハウキクルミハ何人ト云
ヲ知ラス蝦夷人ハ義經ハ何人ト云ヲ知ラサルヲ義經蝦夷
ヘ渡リタリト云俗説アルニ依テ松前ノ人強テウキクルミヲ
義經ノ事也ト附會シテ云傳タルルヘシ并慶崎ト云地名

モヘシケイハ夷言ニテ武藏坊ノ事ニハアラサレ氏自然ニ其名
ノ似タル狄又ハ其地名ヲ義經ノ事ニ附會シテ松前ノ人
号シタル狄ナルヘシ又カノ淨琉璃ニウキクルミ幼年ノ時小舟
ニ乗テ蝦夷ヘワタリシトアルヲ松前ノ人義經幼年ノ時ト
云ヒカヘタルルヘシ義經幼年ノ時ハ鞍馬寺ニ在リテ蝦夷
ヘ渡リシ更ナシ元服シテハ秀衡カ家ニ居テ後平家ヲ
亡シ頼朝ノ勘氣ニ依テ奥州ニ下リ衣河ノ館ニテ自殺
セリ續太平記ニ應永十八年奥州ノ住人小山悪四郎
隆政叛逆ス鎌倉執事上杉氏憲討手ヲ差向ケル
ニ小山圍ヲ破テ津輕ニ走リ蝦夷ニ渡ル其勇威夷
人畏服ス而後酋長ノ婿トナリテ天命ヲ以テ終タリ

夷人祠ヲ建テ祭之其祠今尚存又ト見タリ此事
ヲ謬リ傳ヘテ義經トスルナルヘシ彼鋏先モ小山カ物ナ
ラシモ知ヘカラズ

一上古中古近古 予或儒士ニ問テ曰幾年以上ヲ上古トシ
幾年以下ヲ中古トスルヤト儒士答曰未考ト後三條兼良
公ノ日本紀神代卷ノ纂疏ヲ見シニ其事ヲ辨シタリ
其文ニ曰古ハ説文ニ故也从十口識前言也徐曰古無文字
口相傳也增韻遠代也又久也古有三時曰上中下今指
上古之時 今トハ今親スル所ノ
日本紀ノ古ノ字ナリ 易繫辭傳曰上古結繩而治後
世聖人易之以書契又曰上古穴居而野處後世聖人
易之以宮室 後世聖人者謂伏羲已來帝皇也孔子ノ

云伏羲僅ニ得二千年而指義前謂之上古又曰易
之興也於中古乎作易者其有憂患乎此謂文王作
彖辭之時孔子之去文王又得六百餘年謂之中古
故三古之說無定時分自今而言則孔子之時亦可謂
中古矣○

一兄部 コノカウベトヨム下学集云カ者之頭也ト見タリ
庭訓往來ニ兄部見タリカ者トハ利髮シテ賤役ヲ勤
ル者也輿ヲカキ馬ノ口ナト取也

一和漢朗詠集蕨ノ詩白樂天カ句紫塵嬾蕨人拳手ト
俗本アリ嬾ハ嫩ノ誤也塵ハ莖ノ誤也俗本傳写ノ誤ヲ
傳タリ此事下学集言 詔門ニ見タリ

一様ノ字ノ考 秋草ニ記シタレハ今重テ此ニ載セズ又

義經記才八判官御自宰ヲ余ニワカギニサニタノ子ト

生レサセタニウカクアルヘキケギリカヤ云々此義經記作者

并ニ時代知レズ同書才一発端義朝都落ノ余ニ本朝

ノ昔ヲ尋レハ田村利仁將門純友保昌頼光漢ノ樊噲張良

ハ武勇トイヘトモ名ヲノミ聞テ目ニハ見ズニノアツリ藝ヲ世ニ

ホドコシ万人ノ目ヲオトロカシ玉ヒシハ下野ノ左馬頭義朝ノ

末ノ子源九郎義經トテ我朝ニナラヒナキ名將軍ニテガハ

シケリ云々右ノ文名ヲノミ聞テ目ニハ見ズニノアツリトイヘル

ヲ以考ルニ義經ノ代遠カラサル人記シタル物記ナルヘシサモ

サクテハニノアツリト云ヘルニ應セサルナリ

一單騎 西土三代ヨリ春秋ノ代ニテハ車ニ馬六疋カケテ兼

リシ也駟馬兩駟ト云フ是ナリ車ニカケズ馬一疋ニ乗ルハ

ナカリシナリ馬一疋ニ乗ルヲ單騎ト云史記卷七項羽本紀

ニ項王軍在鴻門下沛公軍在霸上相去四十里沛公

則置車騎脱身獨騎ト見タリ此時既單騎アリシヤ

獨ハ單ト同意也車騎ニ對シテ獨騎ト云也

一沉香 日本紀推古天皇紀曰三年夏四月沉香漂著於

淡路嶋其丸サ一圍嶋人不知沉香以交薪燒於竈其烟

氣遠薰則異以獻之

此以前ニ外國ヨリワタリタルナルヘシサモアラヌハ漂著ノ木ヲ燒タリテ沉香ト云フ知ルヘカラス

一木綿ノ事 吉貝木綿也。閩人謂之吉貝。木名古貝。一日

古終。曰吉貝者。古貝之訛也。南史謂。出林邑于阇利等國。

傳至閩中。其木高七八尺。種五六年。即枯。枯即其又之。至
春其根復生嫩葉。其實有覆蓋。其殼如楨榔。分為四
辨。或三辨。中有茸絮。如鷲毳。茸中有核。遇烈日絮乃
開。未而聚之。或彈以竹弓。或絞以輪車。是為木綿花
矣。采謝枋得詩。嘉樹種木綿。天何厚八閩。厥土不宜
桑。蠶事艱辛。木綿收千株。八口不憂貧。○忠寄云
函書南產志卷之上^{廿四}見。是伺公カ閩書百五十
四卷ノ内卷百五十南產志也。寬延四年辛未夏六月
南產志ヲ和板ニス。又忠寄按本草綱目卷三十六灌木
部七十五丁ノ木綿ノ条ニ時珍曰木綿有二種似木者名古
貝似草者名古終時珍カ說ニヨレハ古終ハ今作ル所ノ草

綿ニシテ木綿ニアラス。○貞丈云類聚國史卷百九十九
殊俗部ニ桓武天皇延曆十八年七月崑崙人參河國
ニ漂著ス木綿實ヲ持來ル同十九年其木綿實ヲ紀伊
淡路阿波讚岐伊豫土佐及大宰府等諸國殖サセラレ
シ由見タリ是右ニ見タル木綿ナリ今世ノ草綿ニアラス
夫木抄ニ衣笠内大臣ノ哥ニ^シキシマヤヤニトニアアラヲカラ人ノ
ウエテシワタノタ子ハタエニキトヨルハ延曆ニワタリシ木綿ノタエ
タルヲ云ヘルナリ貝原好古カ和事始ニ文祿年中重テ
木綿ノ渡リシ由記シタルハ誤ナリ木綿ニアラス今ノ草綿
ノワタリタル也木綿ハ近年渡リ來リテ所々ニテ種ル由
傳聞ケリ又按梅村氏カ室町日記永祿年中ノ事書タル

ニ木綿一及代二百文ト云フ見タリ又予カ家記ニモ永禄比ノ
記ニモンメンシリカイ見タリ是等文禄ヨリモ前ノ事也天
文ノ比ワタリ来リタル歎大永享禄ノ比渡来歎永禄ヨリモ
猶以前ノ事ニテアルヘシ此木綿モ木ニアラス草ナリ

一慎莫 俗語ニ物事猥ナラハルヤウニ取り治ムラシニク
スルト云シニクト云字詳ナラズ思ヒシニ寛保癸亥年南溟
ト云僧ノ著述シテ梓行セル續沙石集ト云書六卷アリ
其第五 女火葬ノ坑ニ向テ豆ヲ焼テ食ケル物語ヲ述
ニ其事ニ付テ教戒ヲ記シタル詞ニ人ハ常ニ慎莫ノ二字ヲ
忘ルヘカラス慎莫夜行慎莫不忠慎莫不孝等也ト云ヘ
リ慎莫ノ二字ハウ、シニテ何ニスル丁ナカレト云事ナリ是ニテ

俗語ノシニクノ二字始テ心付タリ近年ノ人ノ著シタル書
ナリトモ書ラハ見ヘキモノ也不慮ニ知見ヲ用クコアリ慎莫
二字ハ古ヨリアル詞ナリ

一佛ヲホトケト云フハ敏達天皇ノ御宇ニ始テ佛法渡リ又
重テ欽明天皇ノ御宇ニ佛法渡リシニ我國ノ神ノ崇ニテ
天下ニ厄病流行シテ人民多ク死シタリ熱気ノ病ナルユヘ
ホトホリケト云フ言ヲ中畧シテホトケト云ト云フ一説アリ又
佛法ハ煩悩ヲ解脱スル教ナルユヘ迷ヒノ心ホトケルト云フニ
テホトケト云フト云一説アリ右兩説氏ニ附會ノ説也用ル莫
ナカレ佛ヲ梵語ニテハ佛陀ト云又浮屠トモ書ク梵語ヲ
漢字ニ写ス時梵語ニホトト云フ漢字ニテ佛陀トモ浮屠氏

字音ヲ假リテ写シタル也サレバホトケハ佛陀家トモ浮屠
家トモ云フ事也フタケモホトケモハヒフヘホノ音相通也タト
トモ。夕子^チツテトノ音相通也

一 拔^華 孟子卷之三 公孫丑上篇云出於其類拔乎其華
集註云拔時起也華ハ聚也云々 聖人ハ同シ人ノ類ヨリ高ク
出テ多ク聚レル人ノ中ヨリモ秀テ拔出ルト云意ナリ書

籍ナトヲキ書ヲ集メタルヲ拔萃ト稱スルハ義叶ハザラニ歟
一 綾ノ種品 和名抄云有熟線綾長連続ニ足綾花文綾
平綾等ノ名○貞丈云古書ニ縮線綾アリ浮線綾アリ
固文綾アリ縮線綾ハ諸家ノ裝束抄等ニシテ地ノ綾ト
云ヘル是也糸縮ミテシツラアリ浮線綾ハ丈ノ形ヲ糸ヲ浮ケテ

織リタル也裝束抄等ニ浮文ノ綾ト云是也ウケオリノ綾
ナリ後代ニ及テ卧蝶ノ丸ト云紋ヲ浮線綾ノ丸ト稱スル大
ニ誤ナリ固文綾ハ紋ノ形ヲ糸ヲ浮ケズシテ糸ヲ沉メテ固
ク織タルヲ云也裝束抄等 固文ノ綾ト云是ナリスベテ紋ハ
緯糸ニテ 織リ出ス也其文ノ緯糸ニ經糸ヲカラズシテ
織タルハ浮オリト云是浮線綾也其紋ノ緯糸ニ經糸ヲ
カラミテオリタルハ固文ノ綾也○又云壺井義知カ説ニ熟線綾
ト云ハ縮線綾ノ事也熟ト縮ト音相同キ故也ト云是壺井
カ誤ナルヘシ縮ト熟ト字音清濁異也糸ヲ精熟シテ織
タル綾ヲ熟線綾ト云ヘシ熟ハ糸ヲ練リ熟スルナリ
練糸ニテ織タルハ熟線綾也練ヲサル生糸ニテオリタルハ

生線綾ナリ装束抄等ニス、シノ綾ト云ハ是ナリ百反ノ
装束ニ用ユルナリ熟線綾ハ浮文固文ノ二種アリ生
線綾ハ固文ハカリナリ浮文ハナシ

一 絶アシキマ 和名抄ニ和名阿之岐沼唐韻ヲ引テ云絶縵似布
也ト貞丈云絶ハ布ニ似テ糸フトクシテ悪キ縮ト云フニ
テアシキマト云ナルヘシ

一 調布アキマ 和名抄云豆岐乃沼乃ト貞丈云ツキトハミツキモノ
也諸国ヨリ年貢ニ納ル布也○調布テツクリト云訓ア
リ擬訓ナリ本訓ニ非ス

一 庸布 和名抄和名見エス庸ハ雇也ト字書ニアリ諸
国ヨリ人夫ヲヤトヒテ京都ニテ召シ使ハル、ヲ庸ト云人夫

ノ府ニ出サル者ハ其代ニ布ヲ納メ上ルナリ其布ヲ
ト云其丈尺等ノ定法賦役令ニ見エタリ

一 信濃布。望陀布望陀布延喜雜式ニ見タリ和名抄
調布ノ余ニ有信濃望陀等望陀者上総国ノ郡名也其
躰與他国調布頗別異故以所出国郡名爲名也

○貞丈云信濃ニシナト云木アリ其木皮ヲ剥取テ細割
ニ糸ニシテ布ヲ織ル其布目甚麁キ物也色ハ赤クシテ
黒アリ此布ニテ袋ヲ縫ヒ作テ米穀ヲ盛ル是ヲシナ袋
ト名ツク他国ニテ白布ニテ縫ヒ作テ米穀ヲ盛ル袋ヲ
シナ袋ト云モカノ信濃ノシナ袋ニ准シテ云フ也古代信濃
布ト云シハ右ノシナト云木ノ皮ニテオリタル布ヲ云ナルヘシ

一南天ト云フ木ハ本名南天燭也其性大寒ナルカ故ニ毒ヲ解スルノ功能アリ諸毒ハ皆熱ナルユヘ寒ヲ以解スル也又夏日食物ヲ貯ヘ置クニ南天ノ葉ヲ掩ヒ下ニモ葉ヲ敷ケハ食物クサレルコトナク味変セズ又口中ノ病ハ皆胃熱ヨリ生ル也故ニ南天ノ葉ヲ煎シヒヤシテ含シ或ハ葉ヲカゲホシニシテ粉ニシテ付レハ瘡ル也又葉ヲ食物ノカイシキニスレハ食毒ヲ解シ又食物ヲコ子ズ又婦人鏡ノ下ニ葉ヲシキ或ハ物ノ氣ニカル時南天ヲ見又ハ南天ニテ身ヲ打ハラヒナドシニシテ用ルコトハ南天ノ功能ニハアラス是ハ南天ヲ難轉ト取りナシテ難ラ轉スルト云フ意ニテニシテ用ユルナリ是ハ物イテヒニテスルコト也

一拍手^{カデ}ハキヲウツト也拍ハ手偏也拍ト云字ハ木偏也拍手ノ拍^ウハ手偏ナルヲ是ヲカシハテト神道者ノ云フハ文字ノトリチカヘナルベシ上古ニハ唯キヲウツト云タルヲ後ニ文字ヲヨシチガヘテカシハテト云ヒ傳ヘテカシハテト云ヒ義理ヲ強テコシラヘテ妄説ヲノブルナルヘシ拍ト拍ト字ノ形相似リ

一南廷 南庭 東鑑ニアリ沙石抄六下正直之人室得事ノ余ニ宋朝ニイヤシキ夫婦アリ餠ヲ賣テ世ヲワタリケリ有ル時道ノホトリニメ餠ヲ賣ケルニ人ノ袋ヲオトシタリケルヲ見ケレハ銀ノ軟挺六アリケリ家ニモキテ歸ヌ云ヒ合類節用エモ軟挺トアリ南廷軟挺出所アルヘシ未考
一三社託宣 沙石集第六ノ下正直之人室得事ノ余ニ云

聖德太子ノ御コトバニハ謀討雖為眼前之利潤終當
佛神之罰ニ正直雖非一旦依怙必蒙日月之哀トコト
ナルカナ心アラシノ一カクコノ心ヲ存ズベキナリ云々○貞丈云
三社託宣ノ中天照大神ノ託ニ宣ニハ正直ノ語ヲ前ニシテ謀
討ノ語ヲ後ニシ佛神之罰ヲ神明之罰ト改メタリ按ルニ
古聖德太子ノ右ノ語ヲ記シタル書アリシナルヘシ然ルラ
何者歎ソレテ添削シテ天照大神ノ神託トシテ更ニハ幡
春日ノ神託ヲ造リ添ヘテ三社ノ託宣ト名付クルナリ
ハ幡ニ菩薩号ヲ書タルモ正シカラズハ幡ノ託宣ニ食鉄
九ト云ヒ座銅焰ト云ヒ春日ノ神託ニ邪見ト云ヒ慈悲ト
云フ諸皆佛者ノ口氣アリテ穢ハシ是ト部兼俱カ類ノ

佛神ノ两部習合テ好ム者ノ作為スル所ナルヘシ一躰ノ文
甚拙シ信スル事カレ右沙石集ノ作者ハ梶原景時カ孫
ノ無住法師也又云後代ノ神道者ノ意ニハ正直ハ一且ノ
依怙有ラサルカ故ニ謀討ヲ

ナリ聖德太子ノ語ヲ天照大神ノ神託也ト誣ヒ

春日ノ神託ヲ妄作スルハ正直ニ非ス心汚ノ人ト云フベシ
邪見ノ人トスベシ笑フヘキコナリ

一沙石集卷三之下柵尾上人物語ノ余ニ云當世ハ遁世ノ
遁ノ字ヲアラタメテ貪世トカクヘキニヤコノ心ヲ思ワケ侍

一止觀ニ和光同塵結縁之始ハ相成道以論其絳右同書ニ

遁世ノ遁ハ時代ニカキカヘンカシハノカルイテハムサボル

引ケリ 和光同塵本ハ老子経ヨリ出タリ老子経曰和其先
同其塵

一 道風カクルヒ筆ト云ハ俗ニ云ハ道風ハ能書ナリシ故病ニ
テ手フルヘタルヒソレニ拘ラズシテ善ク書タルユヘ道風ガス
ヒ筆ト云傳ヘタリト ○ 貞丈云是アヤコリ也筆ヲ取テ
文字ヲ書クイラ 揮毫氏揮筆氏云也揮ハフルウト
ヨム也文字ヲ書ク時ニ筆ヲ動クスイラ揮ト云ナリ
能書ノ筆ツカヒハ健ニシテ輕クハタラクユヘ揮トハ云ヒタル
ナリケレハフルヒ筆ハ道風一人ニ限ラヌイナリ病ニテチノ
フルヘタルイニハアラス

一世ノ諺ニ兄弟ハ他人ノ始ト云イアリ愚人ハ悪ク心得テ

兄弟ハ他人モ同シ事ト云イ也ト思フハ誤也兄弟ハ共ニ
父母ノ骨肉ヲ受テ同躰ナル者ナレハ兄弟ホト親シキハナシ
然レ氏兄弟ノ子生レテハ伯叔父甥姪トナリ其子又子ヲ
ウシ段々ニ親ミウトクナリ血脉ノワキ遠クナリテ果ハ他人ト
ナルユヘ兄弟ハ他人ノ始ト云也

一世ノ諺ニ名ヲトラウヨリモ徳ヲトシト云フイアリ愚人ハ徳
ト云ラ財宝ノ利ヲ取ルイト思フハ誤也徳ハ利得ノイニ
アラス人倫ノ道ヲ行フ徳也仁義礼智ヲ人ノ徳ト云也
名ヲ取ランヨリモ仁義礼智ノ徳ヲ取レト云イ也取トハ
我が物ニスルイナリ仁義礼智ノ徳ヲ取レバ求メズシテ
名ヲモ取ルナリ

一馬乘ル 走リト 早走リトノニツノ名アリ 走ト云ハ今世ニ
云フノリノ一也ノリトハヒヤウシニ乘リテアユムヘノリト云
ナルヘシ 古書ニノリト云 名ハ見ユヌハシリト云也 早走リト
云ハ今世ニ云フカケノ一也 古言ニハヤバシリトアリ 盛衰記
第四十二 継信盛政 孝養ノ糸ニ黒キ馬ノ千イサカリケルガ
早走リノ逸物也トアリ 又古キ騎各ニカケ足トモ云 又
足ヲ出ストモ云 行列ニ乘ラ馬ヲ打ト云 タノク一ニ非ス

一齊東野人之語 孟子離婁上篇曰此非君子之言齊
東野人之語也 朱子注云齊東齊國之東鄙也 俗語ノ
齊東野人之語ト云 出於此
一武士ノ領所鎌倉ノ代ハ幾町賜ルト云 今ハ幾石ト云

也然ルニ盛衰記 第四十二 屋島合戦ノ糸ニ太胡小橋太ト云
フ者海ヲ潜リテ松浦太郎カ舟ニ乘テ軍ノ下知スルヲ其
足ヲ捕テ海中ヘ引キ入レ首ヲ取タルヲ後ニ世 靜ヲ頼朝
其功ヲ賞シテ千余石ノ 勸賞ヲ給タル由見タリ此千余
石ハ何ノ國ニテト云一モ見ユヌ只千余石トアレハ國郡ヲ給リ
タルニアラズ米穀ヲ千余石タニハリシナルヘシ石ハ斛ノ一也
鎌倉ノ代ニハ何ノ國ノ何ト云外ニテ幾町賜ルト云室町家
ノ代又同シ 信長秀吉ノ代ニハ何貫文ノ所ヲ賜ト云永樂
錢ノツモリ也 當御家ニテハ何千石 何万石 何百石ト云也
米三十五斛ヲ百石トス
一批矢 盛衰記 第四十二 屋島合戦 奈須與一扇の糸ニ

扇ヲハ射タレモ武者ヲハエイズサレハ
狐矢ニユワアレトイハ
ニモ本意ナケレハ只射ヨト云者多シ
貞丈云狐矢ハ流矢ヲ事ニテ射キ
ハ不見ニテ何方ヨリモ不知矢飛來
ルニハ狐ノ所為ト云コノコトニ云

一 鐵炮ノ字會典ニ見ユ
千葉立之カ官職通解云リ

一 柴ト云ハ木ノ名ニハアラス柴ト云木ハナキ也 字畚ニ柴ハ薪

也ト注アリスベテ薪ニスベキ雜木ヲ柴ト云ナリ 樗ノ木ヲ

ナラ柴ト云 椎ノ木ヲシ井柴ト云 白膠木ヲフシ柴ト云スルテ

ニハフシト云物出來ルユヘフシ柴ト云フシハ五倍子也ヲ分コスル

モノ也 鷹ノ鳥ヲ結付ル木ヲトシバト云 鳥柴ト畚也タモシ

柴ト云木也カシハノ葉ノ如クニテ小ク長シトアリ又梅櫻紅

葉松ナトニ鳥ヲ付ルラモスヘテ鳥柴ト云ナリ

一 宣命ノ詞ニ天皇 スノラミコトカ 我止 ミコトノシメト 詔 麻止 敕トアリミコトノラマト、云フハ

ミコトノラニクト云クノ字ヲ畧セル也ニクラ約ムレハムト
ナル也ミコトノラムト云一也 コソノ反 ミコトノリハ御言鳴ナル
ハシ ナトノト 通音

一 御厨子棚ニハ細ナル手道具ノシヲ置ニ限ラス衣服ヲ

モ食物ヲモ置也置物ハ定タルヲナシ何ニテモ置ヘキ棚也

新儀式云 天皇奉賀上皇 御厨子各五基云ニ注曰五基ハ

納夏冬御衣五基積雜帛各五十疋〇又同篇云

立棚厨子曰基置威儀御膳又 奉賀太后 御厨子六基

納御衣管十二合夏御装束 五具 冬御装束 五具

一 威儀ノ御膳ト云ハ食用ニハナラズ只規式一通リノ御膳ヲ云也
一 長物 新儀式春賀天皇御筭篇云〇諸衛ノ舍人持長

物退出 註曰 長物未御之前立流水東庭也 石院司頒
給之 ○ 貞丈按長物ハナカモナトヨムヘキ欵長持ナルベシ
物字モツノ音ナレドモ古語ニツラキニカヨハシテ云フアリ
長ハ訓ニテ物ハ音ニヨメハ湯桶ヨシナレトモ古書ニユタウヨ
ニ文字ラツカヒタルモ多シ 右文長持ニ酒食ヲ納タルヲ給ハル
トト聞ユ足アルヲ唐櫃ト云長キヲハ長唐櫃ト云足ナキヲ
長持ト云常ノ長持ニ對シテ唐トハ云フナルヘシサレハ長持古
ヨリアルヘシ長持本名ハ長櫃ナルヘシ足付タルハ長唐櫃也
東鑑ニ中持アリ是中トハ不長不短ノ櫃ナルヘシ
一母屋モヤ。身屋。母屋トハ本屋也 庇ニ對シテ母屋ト云也 俗ガモ
ヤト云也 新儀式奉賀太后ノ御筭篇ニ身屋ト書レタリ是

本字ナルヘシトモ音相通ナルユヘモヤ氏云ナルヘシ本屋ハ家ノ
身ニテ庇廊ナトハ手足ノ如シ
一衣筥フモコ 新儀式 奉賀太后 御筭篇 西邊立日御厨子六基 納御衣筥十二 合夏御裝束六
具冬御裝束五具 御調度等 ○ 廣益ト云物ハ此衣筥ノフタ也ト位記問答ニ
見タリ衣筥ノ事源氏物語雅亮裝束抄等ニモ見タリ 呂モ
一御厨子。棚厨子。此二品新儀式ニ見タリ只御厨子ト云フモ
棚アレハ外ハ一面ニ開キ戸ノ扉アリテ棚ハ見エサルナルヘシ棚厨子
ト云ハ開キ戸ノ扉ナクシテ棚ヲアラハシ見ユルヤウニ作タルヲ云
ナルヘシ今世御厨子棚ト云ハ棚厨子ニ小ク開キ扉ヲ付クル所
アリ是ハ右ノ二品ヲ一ツニテ兼タルモノナリ佛像ノ入ル龕ヲ
厨子ト云モ御厨子ノ如ク開扉アルユヘ俗ニ佛ノ厨子ト云又

古書ニ二階厨子ト云フハ棚厨子ノ一ナルヘシ

一朝臣 無位無官ノ人朝臣ヲ書ヘカラスト云説アリ誤也
続日本紀ニ天平宝字三年十二月丁丑授正六位上蜜峯
野外從五位下 無位藤原朝臣姉從五位下ト見タリ
此姉ト云人官モナカリシニヤ官名モ見エズ是無位無官
ニテモ朝臣ヲ書ヘキ證據ナリ

一臣下 史記卷八漢高祖本紀曰今臣下爭叛逆云々
臣下ト云詞俗語ニハアラズ

一十善帝位 俗語也 正史實錄ニ曾テ見エス四十二章
經云衆生以十事為惡身三〇四意三、身三者殺盜淫
〇四者兩舌惡罵妄言 綺語意三者 嫉患癡
大藏一覽
報應品詳

出十 轉 右十事ヲ十惡トス十惡ナキヲ十善ト云フ又一説ニ
十禪帝ト書ヘシト云穿説也 右經文俗説辨引之

一尺字ノ訓 日本紀ニ八尺ヲヤサカト訓ヲ付タリサカハ
國訓ニハアラジシヤク轉シテサクトナリサク轉シテサカ
トナル也

一咫字ノ訓 日本紀ニ八咫ヲ。ヤマト訓ヲ付タリクハ手ト
ヘシ神代ニモノサシナト有ヘカラス手ノ指ノタケヲ以テ物ノ
長短ヲハカルユヘ八手ナルヘシ咫ノ字ニ付テ西土ノ尺ノ定ヲ
以テ釈スル説アリ非ナルヘシ

一僧ノ字ノ訓 日本紀ニ僧ノ字ニホウシト訓ヲ付タリ即ケ
法師ノ字音也國訓ニアラズ直ニソウトヨムヘシ字音ニテ

直ニヨコズシテ 別ニ法師ノ字音ヲ假ルハムツカシキヨミヤウ
ナリ

一 德ノ字ノ訓 日本紀ニ德ノ字シイキホヒト訓ヲ付タリ
コハ御ノ字イキホヒハ勢ノ字也 德ヲ勢ト訓スルハ義叶ハス
若シ強テ訓ヲ付ヘキナラバトリユト付ヘシ。トリユ六取得ナリ
凡万物各々レクニ生レツキタルトリエアリ其物ノ取得タル
ワサアリ 鶏ハ晨ニ鳴キ犬ノ盗ヲ吠ユ猫ノ鼠ヲ捕ル類皆
其物ノトリエ也 人ハ人ノトリエアリ皆其トリ得ハ即ケ德
ナリ心ノ惡ヲ去リ除テ身ノ行ヲ善ニシテ正シキヲ守ルハ
禽獸ト異ナル所是人ノトリエ也 即^チ手是德ナクトリエハ
天ノ授ルヲ取り得タルナリ 俗ニ云ハ其物々ノ得手ナリ禽

獸ノ心ハ一偏ニシテ 狹小ナル故 其德ヲ乱ス^フナシ 猫カ鼠ヲ
吠ル^フナク 犬カ鼠ヲ捕ル^フナシ 人ノ心ハ一偏ニカタヨラス 固ク
シテ一定ナル^フナク 廣大ナルカ故ニ物ニ遷リ易クシテ 物欲ニ引レテ
其德ヲ乱ス^フアリ

一 日本紀ノ訓ハ舍人親王ノ付ケタニヒニハアラス 後ノ人ノ付シナルヘシ
残ラス強テ訓ヨミニセントスルニエホコニリタル訓アリ

一 叱食 ドンジキトヨム 是ニギリメシノ^フナリ 飯ヲ握リ固メ
タル也 叱ノ字アウムルトヨム 飯ヲニギリアウメタルナリ

一 古俗ニ多ク見タリ 下賤ノ者ナドニ給ハル食ナリ 源氏物
語ナトモ見ユ 今モ公家ニテハニギリメシヲドンジキト云フ由
ナリ

一料理ハカリヲサムルトヨム何事ニテモトリハカラヒトリヲサ
ムルヲ料理スルト云也食物ヲ調ルヲ料理ト云ハ非
ズ食物ヲ料理スルト云モ其食物ヲトリハカラヒ調ヘラサ
ル義也食物ヲ料理スルト云古例ハ新儀式第四行幸
神泉苑覽競馬篇曰捕池魚於料理所備供御膳給
侍泉トアリ居家必用ニ菟菟ヲ制スルヲ以テ料理ト云
リ然レハ西土ニテモ食物ヲ料理スルト云也凡何ノ事ヲ
料理スルト云事ナレハ食物ヲ料理スルト云詞モアルヘキ
也後代ニハ只料理ノ二字ヲ以テ直ニ食物ノ事トスルハ誤
ナリ古書ニハ何ノ事ヲ料理スルト云ナリ
一文臺 今用ルハ長二尺斗廣一尺二寸斗高三寸斗有テ小キ

物也古ノハ大ナル物ト見ユ新儀式行幸朱雀院召文人
并試擬文章生篇ニ近衛次將二人昇文臺トアリ文ニ
テ昇クハ大ナルモノナルヘシ○貞丈云是即机ナルヘシ又云
文臺ノ文ノ字スシテヨムカ直キ歎フニ臺ト云テ也或説ニ
フシグイトスシテ文字ヲヨメハ湯桶ヨシニテ惡シト云然レハ我國ニ
テハ朝廷ノ事ニ湯桶ヨシ多シ御元服ヲオゲンフスト云類
ナリフシグイヒフグイヒ云ベシ古言ノ格ナリ

一御琴二張 右同書同篇ニ見タリ 今俗一面二面ト云
一胡床ト床机トハ別ナリ俗ニ胡床ヲ床机ト云ハ非也床机
ノ名内裏儀式ニ見タリ床机ヲ床子ト云机ノ如ニテ
四足アリ腰カクル物ナレハ床机ト云胡床モ床几モ朝廷

ニテ公事ノ時官人腰カケルモノナリ床子延喜木工寮式
ニ寸尺アリ此外元子ト云物モアリ
一 天下人ノ心惡心ニナリ惡事ヲスルハ天下貧窮ナルニ因ル也
貧窮ナレハ心樂シカラズ常ニ怒リ怨ル情アリテ唯利
慾ノ盛ニナリテ是ヨリ父子君臣長幼夫婦朋友ノ
道乱レテ此五倫相互ニ利ヲ争フ情アリ如此ノ世ハ聖
人アリトテモ其教ヲ受ケ用ル人ナシ故ニ天下ヲ治ルニハ
必先万民ヲ富シ天下ヲ豊ニスルヲ以テ第一ノ急務ト
スルナリ天下豊ニ万民富メハ惡心ヲ生スルコトナク怒リ怨ム
ル情ナシ如此ナレハタトヒ教ヘストモ人倫ノ道自ラ立ヘシ
況ヤ教ヲ施サンニ於テラヤ乱世ト云フハ合戦アルセラ

云フノミニ非ス合戦ナクハ五倫ノ道乱レタル世ヲ乱世ト
云ナリ五倫ノ道乱レタル世ハ合戦ナシトテモ治世ニアラ
ズ天下ノ貧窮ニナルハ天下ニ君タル人ノ利ヲ貪リテ天
下万民ノ貨財ヲシメ上ゲシボリ取テニタビ出サズシテ天
下ノ貨財乏シクナルガ故ナリ是乱ノ基也天下ヲ治ルト
云ハハ廣大ナルヤウニ聞ユレハ唯天下ノ万民ヲ豊ニ富シ
ムルノ一事ヨリ外ニハナシ既ニ富テ後ニ法度政令ハ時ノ
宜ニ隨フヘキ也和漢往古ノ治乱ノ始リ其形勢サマ
ノ、ニシテ同シカラズトイヘトモ其根本ヲ推シテ考レハ天
下万民ヲ豊ニ富シムルト貪窮セシムルトノ二ツヨリ外ニ
ナシ治政ノ末ハイツトモナク漸々ニ惡政ニ移リ行キ終

國家ヲ失フ也其惡政ニ移リ行ク所ノ機ヲ早ク見ツ
ケテ治政ニ引返サハ國家長久ナルヘシ治政トハ仁政也
仁政ハ天下万民ヲ豊ニ富シムル政也惡政トハ^{ケキ}虛政ナリ
虐政ハ天下万民ヲ貧窮セシムル也聖人ノ道ハ^虐万民ヲ
富スヲ以テ大本トスル也其外ノ事ハ万民既ニ富テ後ノ
教也万民貧窮シテ惡心惡行セハ教ヲ施ト雖トモ
受用ユヘカラズ

一更衣 壺井義知カ説ニ女官ノ更衣ハ統日本後紀承和
九年正月三日天^皇朝覲太上天皇及太皇太后宮於
是日詔授從五位下秋篠朝臣康子正五位下無位山田
宿禰迩子從五位上並太上天皇更衣也凡更衣之号

始于此時乎ト云ヘリ

一人ノ生レツキニ大量アリ小量アリ大量トハ大器量也其才
智廣大ニシテ天下國家ノ廣大ナル事ニ行キワタリテ大
ヤウニシテ細小ノ事ニ拘ラス是高官ニ昇セテ天下ノ政ヲ
司トラシムヘキ器量也小量トハ小器量也其才智狭小
ニシテ大事ニ行ワタラズ細小ノ事ニノ^ニ拘ル是下官ニ處
テ小事ヲ司シムヘキ器量也官職ヲ任スルニハ大量小量ヲ
撰ヘキ也其器量ニ當ラサル人ニ官職ヲ任スレハ政正
シカラス災害ノ基也我朝上古ハ人ノ器量ヲ撰テ撰政
関白大臣ニ昇セラレシ故政事正シクシテ天下大平ナリ
ナリ中世ヨリ藤氏ノ^ニ撰政関白ニ定メラレシヨリ朝政乱

レ衰ヘテ天下ヲハ武家ノ爲メニ押ウバハレシナリ

一 御ノ字ヲ付テ云フコトハ上古ハ天子ノ御事ニ限リタルコト也
後ニ攝家ノ威強ク成リテ諂諛ノ人攝家ノ事ニモ御ノ
字ヲ付テ云フコトニナリ又其後々ニ至テハ御ノ字輕クナリテ
相互ニ敬フニハ御ノ字ヲ付ルコトニナリシ也御ノ字ヲオホント云
ハ大ノ字ノ義也天子ノ御事ナルコトハオホヒナルト云意ナリ
又オントヨムハオホシノ畧也又オトヨムハオンノ畧也又御ノ字
ニトヨムハイシノ畧ナルヘシイニハ忌ノ字又齋ノ字ニテ穢ラ
イシ憚ルノ意ナルヘシ神ノ事ニ忌ノ字齋ノ字ヲ付ルト同
意ナリ

一 神ノ事 忌何ト云ヒ齋何ト云稜威ト云コト右ニ云カ如ク人ノ

事ニ御ノ字付ルト同意也又天ノ何ト云モ天ハ高キモノナレハ
敬ノ詞也或高何ト云コトモアリ同意也又盤何ト云コトモ
アリ盤ハ堅固ニシテ易ラサルモノナレハ祝シテ云詞ナリ
齋庫忌天逆矛稜威高鞞盤鞞ノ類推テ考ヘシ

一 更衣 河海抄曰仁明天皇承和三年正五位上紀朝臣乙魚
授從四位下爲更衣○此乙魚ト云名男ノ如ク聞ントモ
男ニハアラズ女ノ名也 続日本後紀曰仁明天皇承和三年
八月丁巳正五位上紀朝臣乙魚授從四位下柏原天皇ノ
女御也○此時更衣トスルコトハ見エズ○同紀飯高宿禰
永刀自又尚縫從四位下和朝臣緒繼等ノ名アリ男
ノ名ニ似タレ氏女ノ名ナリ

一癩病ヲカタ井ト云又乞巧人ヲカク井ト云古ノ詞ナリ
乞巧人ヲカタ井ト云ハ癩病病ム者ハ人ニ捨ラレテ乞
巧人トナリテ道ノ旁ニ居ルユヘカタ井ト云也契沖カ
和字正濫抄ニ書ケリ是謬ナリ乞巧ヲハカタ井ト井
ノカナヲ用ヘシ癩病ヲハカタイトイノカナヲ用ヘシ癩風ノ
害大風ト云テ證治要訣ニ見タリカタイハ害大ノ事
也俗ニカワタイト云モ害大ナリ

一ヤフニモカウノ物ト云諺古キ事也十訓抄ニ三条殿ヨリ
南京極ヨリハ東ハ管三品ノ亭也三位ウセテ後年比
ヘテ月ノアカキ夜サルベキ人々古キアトラシノヒテカシコニ
アツミリテ月ヲモテアツアツアリケリヲハリ方ニ或人月ハ

ノホル古尺樓ト誦シケル人ノ声ヲ加ヘテ夕ビノニナルニ
アハレタル中ノカクレタル蓬ノ中ニ老タル尼ノヨミアシケ
ナルカ露ニソホナツ、終夜聞タリケルカ今夜ノ御遊
イトノメテタクテ涙モトコリ侍ラタニ此詩コソ及バ耳
ニモ僻事ヲ詠シオハシテスルナトキ、侍レトイフ人々ワラヒテ
奥アル尼カナイワクノワロキカトイハサウナリサゾオボスラ
ニサレド思タコウハ月ハナジカハ樓ニハノボルヘキ月ニハノボルトジ
故三位殿ハ詠シ玉ハセシヲノレハ御物ハリニテオノワカラ承シ
也ト云ヒケレバ耻テ皆立ニケリ是ハス、ミテ人ヲアサツル
ニハアラ子氏思ハヌ外ノ事ナリコレヲミテ心スヘキニヤ藪ニハ
カウノ物トイヘル児女士カタトヘム子ヲタカヘザリケリ○

又同書ニ伏見修理大夫俊綱播磨へクタリケルカ高砂ニ
シテ各哥ヨム大官先生義定ト云者ノ哥

我ノミト思ヒコシカト高砂ノオノヘノ松モて夕立リケリ
人々感シアヘリ良暹ソ所ニアリテ妻牛ニ腹ツカレヌル
ワサカナトゾイヒケルトアリカヤウノ世俗ノ諺モ古ヨリ云
傳タルコトナリ

一馬ノトラゲト云毛ノ名上古ノ書ニ見ヘタリトラゲハ虎毛也

馬ニトラケト云ハ今連錢ト云毛ナリ虎ハ斑毛ナルカユヘ

馬ノ連錢ハニダラナルユヘソレヲ虎フニ准テトラゲト名
ツケタルナリ

一衣服ノ文ニヒヤウモント云コト古書ニアリ文ヲ三四邑ニモ色ニ

サミノノ色ニイロトリタルヲ云是ハ豹ノ皮ハニダラナル
ユヘソレニ准テ云也

一頼政射鶴 十訓抄第十二云高倉院御時御殿ノ上

ニ鶴ノ鳴ケルヲアシキ事也トタイカ、スヘキト云事ニテ

有ケルヲ或人頼政ニ射サセラルヘキ由申ケレハサリナント

テ召レテ参リニケリ此由ヲ仰ラル、ニ畏テ宣旨ヲ承テ

心中ニ思ヒケルハ昼夕ニモチヒサキ鳥ナレハ得カタキヲ五月

ノ空闇深ク雨サヘフリテイフハカリナシ我ステニ弓箭ノ

冥加ツキニケリト思テ八幡大井ヲ念シ奉リテ声ヲ尋

子テ矢ヲ放ツコトフルヤウニ覺エケレハヨリテ見ルニアヤ

ニタズアタリニケリ天気ヨク始テ人々感歎云ハカリナシ

後徳大寺左大臣其時中納言ニテ禄ヲカケラレケルニ
カク十二ノホトキス各ヲモ雲井ニアクルカナ頼政トリアヘズ
弓ハリ月ノイルニカセテト付タリケルイニジカリケリニカ
リ出テ後ニ昔養由雲外ニ射雁今頼政雨中得鶴トゾ
感セラレケル頼政墓目ノ外ニ征矢ヲ取具シテ持タリ
ケルラ後ニ人ノ向ケレハモシ不覺カキタラバ申行ヒタリシ
人ヲゾ射ニガタメ也トゾ答ケル○貞大云頼政カ鶴ヲ射シ
事八十訓抄ノ説ヲ以テ正説トスヘシ是箇夜示鳥ヲ射
タルヲ賞セラレシナリ平家物語源平盛衰記ニ鶴ヲ以
テ妖怪トス是虚説ナリ狂言ト云ツヘシ愚俗ハ奇怪ヲ好ム
ユヘ平家物語盛衰記ノ説ヲ悦フナリ

一愚癡ナル人ハ道理ヲ辨スルナシ道理ヲ云ヒキカセテモ受
ルナシ只物慾ノミ深クテ慾ニ弊レテ其智暗シ天竺國ハ
西ノ方ニ在リ寄テ天地ノ間ノ一方ニ在ル國ナル故其偏氣
ヲ受テ人民ノ性甚愚癡ニテ物慾深ク放逸無慙ナル
風俗ニテ表ムキヨリ道理ヲ説テ教タリ凡少モ受ケ用
ニシキ事ヲ釋迦佛ハ能ク悟リ知テ道理ヲハ捨テスズ
カノ人民ノ慾心ニ付入テ勸メコムナラ考ヘ出シテ極樂地
獄ノ説ヲ作テ教ヲ立テ法ヲ説タル也成佛ヲ好ムモ慾
也地獄ヲ恐ルモ慾也是其慾心ニ付テ道引ク也是ヲ
方便ト云也異朝ニテハ梁武帝本朝ニテハ聖武帝
貴キハ天子ニ如クハナシ富ル事天子ニ如クハナシ人間世界以

上ニ願フヘキコナシ然ルニ死シテ後ノ極樂園ニ生レテ成佛セシ
ヲ願フハ慾也佛經ニ説キタレハトテ目ニモ見エヨ夏ヲ願ヒ
目ニモ見エヨ夏ヲ恐ルハ慾ニクテ迷フ也是大愚大慾ノ人
也天子ノ富貴ノ身ニテ猶シカリ况ヤ其下ナル人民ヲヤ
天下ニ愚人ハ多ク賢人ハ少シ故ニ佛法ハ天下ニ弘ク行
ル也佛法ハ天竺國ノ人ヲ道引キ教ヘニ為ニ設タルナル
ヘシ唐日本人迄ヲ迷ハサントハ釋迦佛ハ思ハサリシナル
ヘシ釈迦ノ説ハサノミ深キ事ニアルニシ後人尊信スルニ
ヨリテ高上深厚ノ説ヲ作為シタルナルベシ梵字ヲ佛
經ヲ漢字ニ翻訳スル時ニ直ニ翻譯シタリヤ否ヤ疑
ナキニアラス凡諸宗ト云者ハ其宗ノ祖師ノ好ム所ヲ

執テ其趣ヲ主張シタルナルヘシ一偏ニ片寄ルハ釈迦ノ
本意ニハアルヘカラス佛者ノ詞ニ迷フト云ヒ悟ルト云フ
アリ然レモ佛法ヲ信スルハ迷也理ヲ明メテ佛法ヲ信セサルハ
悟也

一 小笠原信濃守源貞宗 月山ト号ス又閑禪寺ト称ス
後醍醐天皇ノ時ノ人也此ノ唐僧清拙ト云者ト説シ
テ諸礼ヲ定タル由寛永系圖ニ見タリ此定タル諸礼
小笠原自家ノ礼法ナルヘシ天下ノ礼法ニハアラサルヘシ
貞宗其時將軍ニハ非ス天下ノ武士ノ礼法ヲ定ムヘキ
道理ナシ貞宗大名ナリシ故我家ノ礼法ヲ定ムナル
ヘシ

一小池甚之丞貞成ト云者アリ小笠原長時同貞慶ニ仕
タリ天正文祿ノ比ノ人也功勞有カ故ニ貞慶家傳書
ヲ以テ貞成ニ授ク後貞成小笠原右近秀カ大夫忠政ニ仕ヘタリ
彼家傳書ハ先祖小笠原貞宗カ唐僧清拙ト譏シテ
定メシ諸礼ノ書ナルヘシ貞成ニ從テ諸礼ヲ学フ者多シ
其門才ニ斎藤三郎左衛門久也ト云者アリ久也カ門才
ニ水島傳左衛門元也ト云者アリ元也又後ニ上原八左衛門
ト云者ニ從テ同流ヲ学ヒタリ天和元年辛酉十月十五日甲子
常憲院殿ノ若君 德松君御髮置ノ御祝アリ
台命ヲ奉テ堀田對馬守紀正英御白髮ヲ獻上セリ
其御白髮ヲハ正英水島元也ニ制作サセタリ

若君ノ御白髮ヲ水島制作シタルニ依テ其名高クナ
リテ門第甚多ク其流義世ニ弘コレリ水嶋後ニ入道シテ
名ヲト也ト号スト也カ門第所ニ多クシテ彼流義ヲ
教ヘ傳フ其流義傳書ニ闕ケル事ヲハ多クノ門才各私意
ヲ以テ新ニ作り出シテ其門才ニ傳フ其門才モ又新作
妄説ヲ造テ門才ニ傳フ如スル故妄説世ニ多ク弘
コレリ其傳書ヲ見ルニ古代曾テナキ事ヲ故実也トテ
記シ又小ノ事ニ秘傳多シ其傳書ヲ見其秘傳ヲ聞
腹ヲ捧テ笑フヘキ事ノミ也學者ノ賤ズル所也カノ
水嶋本ト其癖アリシ故末流ニ至テモ其癖ヲ受継シ也
諸礼ト云号ハ諸ノ礼ト云事也凡諸道ニハソレノ家

アリ其事ハニ付テフノ礼法アリ一家ニテ諸道ノ礼
ハ知り難シサレハカノ水島カ諸礼ハ其道々其家ノ
礼ニ違タル多シ其違タルハ何故ソト云フニ妄作シタ
ルが故也世間文盲ナル人ニ是ヲ信用スル故也世ニハマリ
テ是ヲ学テ渡世ノ業トスル者多シ慨クヘシ

一白馬節會奏

康富記

嘉吉四年正月

右馬寮謹奏

合白馬壹拾壹疋

三頭卜部朝臣兼敏

貢葦毛

權頭源朝臣氏尚

貢葦毛

權助

三頭卜部朝臣兼敏

貢葦毛

權頭源朝臣氏尚

貢葦毛

權助

三頭卜部朝臣兼敏

貢葦毛

權頭源朝臣氏尚

貢葦毛

權助

權助

右依例如件謹奏

嘉吉四年正月七日

正五位下行權頭源朝臣氏尚

從五位下頭卜部朝臣兼敏

遺

御監正二位行權大納言兼右近衛大将藤原朝臣實
此白馬奏左馬寮之書様各別也雖舊本見猶尋申
清外史才之間返報如此仍書調遺之

一 裝束 夏冬ト云夏 禁秘抄恒例每日次第之篇云

著御引直衣

自四月一日至九月晦日夏也
自十月一日至三月晦日冬也

一 古事談曰伊豫入道賴義者自壯年之時無有慙愧
心以殺生為業 十二年征戰之間殺人罪不可勝計
因果之所答不可免地獄之業也雖然出家遁世之
後建堂ヲミウ造佛滅眾生善心猛利揭焉也於件
堂悔過悲泣之淚自板敷縁ニ傳流レテ地ニ落ケリ
云々貞丈按賴義ハ勇將ニ似テ勇將ニハ非ス目ニ見ル所ノ

歎賊ヲハ怖レスニテ目ニ見サル地獄ヲ怖レテ出家シ堂
ヲ立テ悲泣シ淚ノ板敷ヨリ漏レテ地ニ落ルニテ流シタルハ
地獄ヲ怖ルニハ甚シケレハナリ嗚呼賴義也何夫愚乎
何夫怯乎又不獨賴義有其他勇將猛士同之者噫更ニ歎
佛法之大毒徹于愚人之骨髓烈於砒鴆哉

一 大嘗會ノ御冠 古事談云大嘗會之時代、今著給フ

玉冠ハ應神天皇之御冠也

相具御礼服
在內藏寮

後三條院御頭ニ

メテタノアハセ給メリケル此事ヲツ子ニ御自擯云々貞丈云
古ハ大嘗會ニ玉冠礼服ヲ着御シタニヒシヲ知ヘシ

一 先例 古事談曰賢子中宮者白川院
中宮寵愛異他之故
於禁裏薨シ給也雖為御腦危急不被許退出

也閑眼ノ時猶抱御殿ヲ不令起避給云々于時俊明卿
參入申云帝者薨遭之例未曾有候早可有行幸云
仰云例ハ自此コソハ始ムラメ云 貞丈云凡ソ例ハ必其例ノ
始ノナキコソハナシ白川院ノ仰ハ尤理ナリ凡先例ヲ用ルハ
時ヨリ事ニヨルヘシ後代ノ事ハ前代ト同シキ事出表
サルモノ也一概ニ先例ニ拘レハ事ノ害アル事アリ根ニ先例
ヲ尋ルハ其事ヲ行フ人ノ臨機應変ノ智ナク事情ニ
達セサル不才ノ人ノスルコソナリ又先例ヲ用スシテ妄行
ナルコソ有ヘシ一隅ニ寄ルヘカラズ
一誓文状ニ伊豆箱根三島大明神ノ書入ル事貞永式
目ノ起請文ニ摠日本國中六十余州大小神祇殊ニ伊豆

宮根兩所權現三嶋大明神八幡大菩薩天満大自在天神
部類眷屬神罰冥罰各可罷蒙者也トアルヲ本ニシテ
建ク也是ハ鎌倉ニテ貞永元年北条泰時カ評定所
ニテ理非決断ノ為ニ貞永式目ノ書ヲ撰テ評定裁断
ニ私曲スヘシキト云誓文也伊豆箱根三嶋明神鶴岡
八幡荏柄天神等ハ皆鎌倉近邊ノ神社ナル故以等
ノ神名ヲ奉テ誓タル也他國ニテハ其國中ノ神ニ誓
フヘキ事也然レ氏今
徳川ノ御家ニテハ武藏國ノ神ヲハ用ラレスシテ伊豆箱根
三嶋三社ノ神名ヲ誓文ニ用ヒクニヘリ子細アルヘキコソ
ルベケレドモ其意味ハ知ラズ正慶承明記ト云書ニ云

承應二年癸巳五月十九日豆州三嶋大明神御
造管奉行被仰付荒尾平八郎大河内善兵衛兩人
也抑此社御造管ノ地ト成ル事ノ由ヲ尋ル処ニ先年彼
社ノ神主在江戸メ御造管ノ事訴訟ス於評定所
松平伊豆守阿部豊後守連座之節神主訴訟罷
出申上ル今天下ニ伊豆箱根兩所權現三嶋大明神往古
右大將頼朝卿ヨリ御尊崇異他就中右大臣實朝
公ノ御治世ヨリ天下大事御穿鑿ノ證人ニ立セ給
ヨリ以來
御當家 東照宮様 台徳院様 大猷院様御三代共
三社ヲ以テ證人ト被 遊候然ル所ニ兩社權現ノ御奉

公ハ其功立テ為御造管地ト三嶋明神斗其功空ク被
為捨候事奉歎入之由ヲ申上ル伊豆守打笑テ三社
御奉公トハ何ゾヤ神主答申上ルハ今天下諸奉行諸役
人私曲ヲ存テジキ由ニテ誓詞ヲ被仰付候時平泰時
朝臣ノ式目ノ例ニ從テ罰文ニ日本六十余州大小ノ神祇
殊伊豆管根兩所權現三嶋大明神ト被成候然ル兩所
權現ハ御造管ノ地ト成候ハ三嶋ハ其功不達廢社ト罷成候付奉願旨
委細演豊後守被申ハ其方願之段非無其理追而各相談之
上ニテ可達 上聞之条可退出ト也神主悦テ退出ス依之
此度御造管被仰出之 永ク御造管ノ地ト成ル誠ニ神主
加働詞最才智ノ至哉ト世人感シアヘリ

一 弘ノ字ノ音漢音ニテハコウ 吳音ニテハグトヨム 佛經ヲバ
スベテ吳音ニヨムヲナレハ弘法大師モグハフ大師ト稱スヘキ
ヲナルニユウハフ大師ト稱スルハイカナル故ニカ

一 響ノ字ヲクツワトヨム 和名抄ニ響 久豆和都良俗云
久都和トアルニ依テナリ 和名抄ニ云フ所ノ久都和ヲ以テ
今世馬ノクニニハメル クツハノ事トスルハ誤ナリ 久都和都良
ト云ハクニワキツナト云フノ畧語ナリワラハツナ也ナトラト
音相通也 ヲラマクト云ラワナマク氏云オモツナト云ラオモ
ワラト云同例也 クツワツラト云ハクニワキツナト云フニテ
今世手綱ト云物ノ事也 俗云久都和トハツワツワラ
ト云フノ畧シテクツワト 俗ニ云ヒシト云フ也 然レハ

和名抄ヲ書タル時代ニ俗ニクツワト云シ物ハクツワツラノ
畧語ニテ即今世ノ手綱ノ事ニテ今世馬ノクニニハメルクツハ
ノ事ニハアラサルナリ 又和名抄ニ鑣久都波美俗ニ云
久久美トアリ 久都波美ト云ハ馬ノクケニハメルト云フ
ニテ今世クツハト云物ノ事也 ヲトキト音相通也 此トメト音
相通ナル故クキハメラクツハト云也 俗云久久美トツワハミ
ノ事ヲ俗ニハクニシト云ヒシト也 クニシトハフクニト云フ也 フト
クト音相通ナル故フクニト云フ久久美ト云馬ノクニニ
フクメル物ナレバ也 是今世クツハト云物ノ事也 古クツワト
云シ物ト今クツハトイフ物ト
一 古ヨリカナヅカヒ書多シ何レノ書ニモ馬ノクニニハメル

鉄物ヲクツワトワノカナヲ用ユベシ馬ノクキノ輪ナルユヘ
也ト云ハ古人皆誤レル也前ニ云如ク古代ハ馬ノクキハメル
鉄物ヲハクツハミト云シナリ今畧シテクツワト云フ也クツワ
ミノ畧語ナレハクツワトハノカナヲ用ユヘキ也ワノカナハ悪シ
今世ノクツワハノ形丸キ輪アルユヘ其形ニ拘ハリテクキノ
輪ト云フ也ト思誤テワノカナヲ用ユヘシト云ハ甚誤也
上古ハ丸ニ十文字ノクツハ、ナカリシナリ又和名抄ニ久豆
和都良俗ニ云久都和ト云ヘル此久都和ニハクツワトワノ
カナヲ用ヘシクキワナノ畧語ナレバワノカナヲ用ヘキ也
此クツワトクツワトノカナノ差別ハ數品ノカナワカヒノ書共
ニイコダ辨ザルナリ也契沖ガ和字正鑑抄具原篤信ガ

和字解考ニモワトハノ差別ヲ誤リ軍器考ニモ鑣銜ヲ
久都和トワノカナヲ用タリ新井筑後守モハトワノ差別
ヲワキニヘサリシ也揖取魚彦ガ古言梯ニモクツワクツワ
ワララ峯タルノシニテハトワト差別ヲ云ス是等ノ學者
ノ書タニモ皆然リ况ヤ定家ノカナツカヒ以下ノ俗書ヲ
此事ヲ始テ明ニ辨シ得タル者ハ貞丈一人也
一侍讀ト云ハ天子ノ文学ノ師也君前ニ侍リテ讀唇ヲ
教ヘ奉ル故侍讀ト云也後ニ轉シテ俗人樂曲ヲ天子ニ
教ヘ奉ル者ヲモ侍讀ト云佛法ヲ天子ニ教ヘ奉ル僧ヲモ
侍讀ト云フニナレリ是等ハ文学ノ侍讀ニ准シテ云也
サレハ侍讀ノ号ハ都テ天子ノ師ノ総稱ノ如クニナレリ

一天主教 蠻語ニキリストヤント云此方ニテ吉利支丹ト
書ク

將軍家御名

細吉公

吉ノ字ヲ諱テ後ニ切支丹ト唇ク

也又テイウスト云ハ彼キリストヤンノ宗門ヲ本尊ノ名也
トゾ是ヲ譯シテ天主ト云フト或人ノ説也。ハテシ。
イルシ。ナト云ハカノ宗門ヲ弘メントテ我國ニ渡リ来レル
蠻人ノ名也ト聞傳フ天主教ノ事唐本ノ五雜俎ニ見
タリト云此國ニテ刻メル本ニハナシ制禁ノ事ナル故
天主ノ事ヲ載タル卷ヲハ刻版セスト也



